



滋賀県立大学
平成29（2017）年度
講義概要（シラバス）

※この冊子は、Web版シラバスをPDFに変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/>) で、ご確認ください。

目 次

1110121	英語 A (活性化コース) (人文)	渡 寛法	前期	...	1
1110122	英語 B (活性化コース) (人文)	渡 寛法	後期	...	3
1110131	英語 A (活性化コース) (人文)	香山 恵美	前期	...	5
1110132	英語 B (活性化コース) (人文)	香山 恵美	後期	...	7
1110141	英語 A (活性化コース) (人文)	佐久間 思帆	前期	...	9
1110142	英語 B (活性化コース) (人文)	佐久間 思帆	後期	...	11
1110151	英語 A (活性化コース) (人文)	西澤 裕一	前期	...	13
1110152	英語 B (活性化コース) (人文)	西澤 裕一	後期	...	15
1110161	英語 A (活性化コース) (人文)	関 初海	前期	...	17
1110162	英語 B (活性化コース) (人文)	関 初海	後期	...	19
1110331	英語 A (応用コース) (人文)	Carl John Boland	前期	...	21
1110332	英語 B (応用コース) (人文)	Carl John Boland	後期	...	23
1110341	英語 A (応用コース) (人文)	Armando Duarte	前期	...	25
1110342	英語 B (応用コース) (人文)	Armando Duarte	後期	...	27
1110351	英語 A (応用コース) (人文)	Ashley Mark Stevens	前期	...	29
1110352	英語 B (応用コース) (人文)	Ashley Mark Stevens	後期	...	31
1110361	英語 A (応用コース) (人文)	Gordon Maclaren	前期	...	33
1110362	英語 B (応用コース) (人文)	Gordon Maclaren	後期	...	35
1110371	英語 A (応用コース) (人文)	Karl Hedberg	前期	...	37
1110372	英語 B (応用コース) (人文)	Karl Hedberg	後期	...	39
1110531	英語 A (充実コース) (人文)	西澤 裕一	前期	...	41
1110532	英語 B (充実コース) (人文)	西澤 裕一	後期	...	43
1110541	英語 A (充実コース) (人文)	渡 寛法	前期	...	45
1110542	英語 B (充実コース) (人文)	渡 寛法	後期	...	47
1110551	英語 A (充実コース) (人文)	Walter Klinger	前期	...	49
1110552	英語 B (充実コース) (人文)	坂本 輝世	後期	...	51
1110561	英語 A (充実コース) (人文)	佐久間 思帆	前期	...	53
1110562	英語 B (充実コース) (人文)	佐久間 思帆	後期	...	55
1110571	英語 A (充実コース) (人文)	Carl John Boland	前期	...	57
1110572	英語 B (充実コース) (人文)	Carl John Boland	後期	...	59
1110741	英語 A (展開コース) (人文)	坂元 敦子	前期	...	61
1110742	英語 B (展開コース) (人文)	坂元 敦子	後期	...	63
1110751	英語 A (展開コース) (人文)	吉田 亞矢	前期	...	65
1110752	英語 B (展開コース) (人文)	吉田 亞矢	後期	...	67
1110761	英語 A (展開コース) (人文)	坂元 敦子	前期	...	69
1110762	英語 B (展開コース) (人文)	坂元 敦子	後期	...	71
1110771	英語 A (展開コース) (人文)	真田 満	前期	...	73
1110772	英語 B (展開コース) (人文)	真田 満	後期	...	75
1110781	英語 A (展開コース) (人文)	坂本 輝世	前期	...	77
1110782	英語 B (展開コース) (人文)	坂本 輝世	後期	...	79
1130090	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文a)	森 将豪	前期	...	81
1130100	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文b)	亀田 彰喜	前期	...	83
1130110	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文c)	森 将豪	前期	...	85
1130120	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文d)	山本 洋紀	前期	...	87
1130200	情報科学概論 (人文b) 亀田 彰喜		後期	...	89
1130210	情報科学概論 (人文a) 森 将豪		後期	...	91
1130220	情報科学概論 (人文c) 森 将豪		後期	...	93
1130230	情報科学概論 (人文d) 亀田 彰喜		後期	...	95
1150360	人間探求学 (生活デザイン) 学科教員		前期	...	97
1150451	川の未来学 村上 修一		前期	...	99
1150460	比較住居論 藤木 庸介		前期	...	101
1150540	History of Japanese Cinema Carl John Boland		前期	...	103
1150550	Patterns in Japanese Culture & Society Carl John Boland		後期	...	105
1150560	Model United States of America Benjamin John McCracken		前期	...	107
1150570	Model United Nations Benjamin John McCracken		後期	...	109
1201270	建築法規 戸川 勝紀		後期集中	...	111
1400070	一般構造 佐々木 一泰		前期	...	113
1400080	インテリア計画論 宮本 雅子		前期	...	115
1400088	インテリアコーディネーター概説 藤木 庸介		前期	...	117
1400340	環琵琶湖文化論実習 (生活デザイン) 学科教員		通年	...	119
1400430	基礎設計製図 南 政宏		後期	...	121
1400440	基礎服飾デザイン 横田 尚美		後期	...	123
1400570	近代デザイン史 面矢 慎介		前期	...	125
1400580	空間デザイン論 佐々木 一泰		後期	...	127
1400705	建築計画論 藤木 庸介		後期	...	129
1400730	考現学概論 面矢 慎介		前期	...	131
1400820	構造計画 (生活デザイン) 渡邊 須美樹		後期	...	133
1400830	構造力学 (生活デザイン) 渡邊 須美樹		後期	...	135
1400910	サステナブルデザイン論 南 政宏		前期	...	137
1400930	色彩学 宮本 雅子		前期	...	139
1400940	色彩学演習 宮本 雅子		後期	...	141
1401130	社会調査方法論 大野 光明		後期	...	143
1401140	社会調査論 中井 治郎		前期	...	145
1401210	住環境設計演習 佐々木 一泰		前期	...	147
1401220	住環境設計演習 宮本 雅子		後期	...	149

1401230	住環境設計演習	佐々木 一泰	前期	...	151
1401250	住環境論	宮本 雅子	後期	...	153
1401350	消費科学	松永 伸洋	後期	...	155
1401360	消費科学	松永 伸洋	前期	...	157
1401370	消費者行動論	山田 歩	前期	...	159
1401380	消費生活論	小牧 美江	後期	...	161
1401540	心理学基礎	後藤 崇志	前期	...	163
1401560	生活経営論	山田 歩	後期	...	165
1401580	生活造形基礎演習	南 政宏	前期	...	167
1401620	生活素材論	三宅 肇	前期	...	169
1401630	生活デザイン学外演習	学科教員	通年集中	...	171
1401635	木匠塾(生活デザイン)	佐々木 一泰	通年集中	...	173
1401640	生活デザイン論	学科教員	後期	...	175
1401690	生活デザイン論演習	学科教員	前期	...	177
1401701	生活デザイン論演習	学科教員	後期	...	179
1401800	卒業研究・製作/論文(生活デザイン)	学科教員	通年研究	...	181
1402205	テキスタイルデザイン論	内丸 もと子	後期	...	183
1402230	デジタルデザイン演習	印南 比呂志	通年	...	185
1402260	デッサン法	富原 仁美	前期	...	187
1402290	道具計画論	印南 比呂志	前期	...	189
1402300	道具デザイン演習	南 政宏	前期	...	191
1402310	道具デザイン演習	印南 比呂志	後期	...	193
1402320	道具デザイン演習	面矢 慎介	前期	...	195
1402340	道具デザイン史	面矢 慎介	後期	...	197
1402350	道具デザイン論	印南 比呂志	後期	...	199
1402360	統計学基礎	細馬 宏通	前期	...	201
1402510	人間工学	中村 孝之	後期	...	203
1402520	人間工学実習	森下 あおい	前期	...	205
1402540	人間文化論A	細馬 宏通	前期	...	207
1402550	人間文化論B	定森 秀夫	後期	...	209
1402560	人間文化論C	宮本 雅子	後期	...	211
1402630	比較衣装論	横田 尚美	前期	...	213
1402680	比較道具論	面矢 慎介	後期	...	215
1402780	服飾文化論	横田 尚美	前期	...	217
1402800	服飾心理学	横田 尚美	後期	...	219
1402830	服飾造形論	森下 あおい	後期	...	221
1402860	服飾デザイン演習	森下 あおい	前期	...	223
1402870	服飾デザイン演習	横田 尚美	後期	...	225
1402880	服飾デザイン演習	森下 あおい	前期	...	227
1402900	服飾デザイン論	森下 あおい	前期	...	229
1402910	プレゼンテーション技法	印南 比呂志	後期	...	231
1402999	マーケティングリサーチ演習	山田 歩	前期	...	233
1403000	マーケティング論	山田 歩	後期	...	235

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110121	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

- (1) TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (30%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

初回授業には時間を測れるストップウォッチ (スマートフォンでも計測機能があればOK) を持ってきてください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110122	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

- (1) TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (30%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	香山 恵美	
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキヤニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

到達目標

日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30% 授業内での取り組み
30% 授業内の課題
40% 到達度確認テスト (2回)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	香山 恵美	
講義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキヤニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

到達目標

日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30% 授業内での取り組み
30% 授業内の課題
40% 到達度確認テスト (2回)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)							担当教員	香山 恵美
講義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	授業の進め方説明
第2回	Unit 11	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 12	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 13	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 14	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 15	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 16	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 17	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 18	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 19	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	Unit 20	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	コミュニケーションスキルテスト	コミュニケーションスキルテストを行う
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
担当者から一言		

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110141	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後に課題の提出が毎回あります。

到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition	妻鳥千鶴子、田平真澄	センゲージラーニング	978-4-86312-293-2
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆	
講義コード	1110141	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	TOEIC Part1の集中トレーニング	Unit1～7のPart1を演習
第2回	Unit1	Part2, 3, 6を演習
第3回	Unit1	Part4, 5, 7を演習
第4回	Unit2	Part2, 3, 6を演習
第5回	Unit2	Part4, 5, 7を演習
第6回	Unit3	Part2, 3, 6を演習
第7回	Unit3	Part4, 5, 7を演習
第8回	Unit4	Part2, 3, 6を演習
第9回	Unit4	Part4, 5, 7を演習
第10回	Unit5	Part2, 3, 6を演習
第11回	Unit5	Part4, 5, 7を演習
第12回	Unit6	Part2, 3, 6を演習
第13回	Unit6	Part4, 5, 7を演習
第14回	Unit7	Part2, 3, 6を演習
第15回	Unit7	Part4, 5, 7を演習
担当者から一言		
授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為(私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等)をする者の受講は認めません。		

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110142	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになったの演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後に課題の提出が毎回あります。

到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition	妻鳥千鶴子、田平真澄	センゲージラーニング	978-4-86312-293-2
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

--

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)							担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
5. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度（授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど）

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりとっていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	97848600133
2	キクタンTOEIC TEST SCORE 500	一杉武史	アルク	9784757428584
3	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身！	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	Roman Holiday (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	Roman Holiday (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	Roman Holiday (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	Roman Holiday (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	Roman Holiday (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	Roman Holiday (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	Roman Holiday (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	Roman Holiday (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	Roman Holiday (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	Roman Holiday (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	Roman Holiday (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	Roman Holiday (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	Roman Holiday (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第16回	Roman Holiday (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第17回	Roman Holiday (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	Roman Holiday (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	Roman Holiday (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第20回	Roman Holiday (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第21回	Roman Holiday (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	Roman Holiday (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	Roman Holiday (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	Roman Holiday (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	Roman Holiday (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	Roman Holiday (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	Roman Holiday (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	Roman Holiday (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	Roman Holiday (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	Roman Holiday (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習

担当者から一言

12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)							担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
5. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度 (授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど)

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりとっていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	97848600133
2	キクタンTOEIC TEST SCORE 500	一杉武史	アルク	9784757428584
3	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身!	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	Roman Holiday (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	Roman Holiday (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	Roman Holiday (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	Roman Holiday (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	Roman Holiday (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	Roman Holiday (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	Roman Holiday (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	Roman Holiday (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	Roman Holiday (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	Roman Holiday (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	Roman Holiday (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	Roman Holiday (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	Roman Holiday (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第16回	Roman Holiday (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第17回	Roman Holiday (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	Roman Holiday (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	Roman Holiday (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第20回	Roman Holiday (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第21回	Roman Holiday (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	Roman Holiday (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	Roman Holiday (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	Roman Holiday (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	Roman Holiday (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	Roman Holiday (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	Roman Holiday (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	Roman Holiday (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	Roman Holiday (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	Roman Holiday (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習

担当者から一言

12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	関 初海	
講義コード	1110161	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

到達目標

- (1) 英語の語彙力を身につける
- (2) リスニング能力の向上
- (3) リーディング能力の向上
- (4) ライティング能力の向上
- (5) スピーキング能力の向上
- (6) TOEICスコアをアップさせる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1), (3), (4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	40	到達目標(2), (6)について2回の到達確認テストで評価(30%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価(10%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa他	南雲堂	9784523177418
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	関 初海	
講義コード	1110161	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーションとUnit 1	授業の進め方についての説明 Unit 1 教育とジェンダー
第2回	Unit 1(2)	Unit 1 教育とジェンダー (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第3回	Unit 2(1)	Unit 2 地球温暖化 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第4回	Unit 2(2)	Unit 2 地球温暖化 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第5回	Unit 3(1)	Unit 3 飲料水の確保 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第6回	Unit 3(2)	Unit 3 飲料水の確保 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第7回	Unit 4(1)	Unit 4 貧困と飢餓 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第8回	到達確認テスト とフィードバック Unit 4(2)	到達確認テスト 実施と解説 Unit 4 貧困と飢餓
第9回	Unit 5(1)	Unit 5 病との闘い (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第10回	Unit 5(2)	Unit 5 病との闘い (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第11回	Unit 6(1)	Unit 6 テロリズム (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第12回	Unit 6(2)	Unit 6 テロリズム (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第13回	Unit 7(1)	Unit 7 日本人強制収容所 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第14回	Unit 7(2)	Unit 7 日本人強制収容所 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第15回	到達確認テスト とフィードバック	到達確認テスト 実施と解説 前期の総復習
担当者から一言		

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	関 初海	
講義コード	1110162	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

到達目標

- (1) 英語の語彙力を身につける
- (2) リスニング能力の向上
- (3) リーディング能力の向上
- (4) ライティング能力の向上
- (5) スピーキング能力の向上
- (6) TOEICスコアをアップさせる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1), (3), (4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	40	到達目標(2), (6)について2回の到達確認テストで評価(30%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価(10%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa他	南雲堂	9784523177418
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)							担当教員	関 初海
講義コード	1110162	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Unit 8(1)	Unit 8 核兵器 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第2回	Unit 8(2)	Unit 8 核兵器 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第3回	Unit 9(1)	Unit 9 カンボジア大量虐殺 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第4回	Unit 9(2)	Unit 9 カンボジア大量虐殺 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第5回	Unit 10(1)	Unit 10 地雷撤去 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第6回	Unit 10(2)	Unit 10 地雷撤去 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第7回	Unit 11(1)	Unit 11 難民 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第8回	到達確認テスト とフィードバック Unit 11(2)	到達確認テスト 実施と解説 Unit 11 難民
第9回	Unit 12(1)	Unit 12 ネルソン・マンデラ (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第10回	Unit 12(2)	Unit 12 ネルソン・マンデラ (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第11回	Unit 13(1)	Unit 13 アウン・サン・スー・チャー (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第12回	Unit 13(2)	Unit 13 アウン・サン・スー・チャー (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第13回	Unit 14(1)	Unit 14 国際赤十字の活動 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第14回	Unit 14(2)	Unit 14 国際赤十字の活動 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第15回	到達確認テスト とフィードバック	到達確認テスト 実施と解説 後期の総復習
担当者から一言		

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110331	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Final Speaking Test (50%).

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110332	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Comedy Sketch Performance Test (50%).

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher meets with each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read their essay or story aloud and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Portfolio: Students write 8 textbook writing assignment essays.

Final Presentation: Students read aloud 1 of their 8 essays to the class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	30	In-class final: Choose one of your 8 writings and orally present it to the class. You will be assessed according to the speaking and writing rubrics.
レポート課題	50	Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each, Writing Objective 3 - 50%
上記以外	20	Writing portfolio - Homework assignments from weeks 2-7 and 9-13. Total 8 essays. Show your essays to the teacher for corrections as you finish each essay. Show your collection of corrected essays to the teacher in weeks 14-15.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを3回以上欠席すると毎回欠席は採点から3点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Armando Duarte	
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Explanation of schedule, grading, rubric	Course introduction, syllabus quiz, getting to know other students. Begin writing one-page story/essay. Topics will be discussed in class.
第2回	Working and jobs What is a sentence, paragraph	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第3回	Giving and receiving gifts Topic sentences	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第4回	Giving and receiving gifts Using conjunctions	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第5回	Travel and places Descriptive vocabulary	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第6回	Familiar places Conjunctions and adjectives	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第7回	Inspiring people Using adjectives, conclusions	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第8回	Mid-term	Students read aloud their writing to the class. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第9回	Inspiring people Punctuation	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第10回	Trends Freewriting	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第11回	City or country life Peer reviewing	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第12回	Lying Facts and opinions	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第13回	Lying Using opinions and examples	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第14回	In-class final	Students will orally present their best writing to the class.
第15回	In-class final	Students will orally present their best writing to the class.

担当者から一言

It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Armando Duarte	
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業種別			
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

This class is an introduction to academic skills. You will develop all four of your English skills (listening, speaking, reading, and writing). You will read articles, listen to stories, watch videos, and talk about each topic. At the same time that you use English to learn about real-world content, you will apply it to your life and compare and contrast it with Japan.

In this class, we will start to develop skills that you need not only in English but also in Japanese. These include (1) Give, agree with, and politely disagree with opinions. (2) Analyze new facts and apply them to your life. (3) Decide when information is reliable and important. (4) Understand the basic structure of conversations, things you hear, and articles you read. (5) Provide support for your ideas. (6) Participate in pair and small group discussions.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary). Their English will also be (4) grammatically correct.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	Interview exam 20% Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade. Story Presentation 15%, Writing and Speaking Objectives 1,2, and 3 are worth 50% each of the total grade.
レポート課題	15	Research Paper 15% Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Writing Objective 2 is worth 50% of the total grade.
上記以外	25	Home work 15% and In Class participation 10%

If you miss more than 5 classes, you will not be able to pass the class. Also, if you are more than 30 minutes late, you will be marked as absent for that day.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Reading Adventures 3		Cengage National Geographic Learning	978-0-8400-3039-9
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業種別		
ナンバリング番号	101ENG104							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Orientation	Introduce the course, ice breaking activities, self-introductions
第2回	Unit 1A: Hiding from danger	Talk about Cause and Effect
第3回	Unit 1B: Spider webs	Talk about supporting ideas
第4回	Unit 2: Remaking Humans	Go over both units A and B, review for interview test
第5回	Unit 1-2 Progress Check/Role-play	Interview test
第6回	Unit 3A: Earth's beginning	Talk about sequencing
第7回	Unit 3B: Deep sea vents	Talk about classification
第8回	Unit 4: Saturn	Talk about summary completion, review for research paper
第9回	Report due.	Talk about cause and effect and its importance in language. Talk about different kinds of poetry and poems
第10回	Unit 6A: Writing around the world	Creative Writing day!
第11回	Unit 6B: Why do people read?	Talk about ideas for the research paper
第12回	Report due. Unit 7: Lewis Carroll	Students will present research papers in small groups.
第13回	Unit 7: Unit 8: Disappearing Languages	Introduce final exam
第14回	Unit 8B: The Hadza	Review material introduced over the semester and prepare for final exam
第15回	Final evaluation/presentation	Students present final presentations

担当者から一言

Please come to class each week—and come prepared. English and sports are similar. You need to work on them each week to improve!

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Ashley Mark Stevens	
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Outline: The course aims to develop and expand on learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	60% Final Interview Test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test. 25% Final Written Test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% each and Writing Objective 3 is worth 50%
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Ashley Mark Stevens	
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction and Useful English	Explanation of schedule, grading, rubric.
第2回	Unit 1: Getting to know you	Communicative activities to learn about the other students in the class.
第3回	Pronunciation: learning to speak English	Learning about areas of pronunciation that are particularly challenging for Japanese learners, and how to overcome them.
第4回	Unit 2: Family and friends	Learning key vocabulary and how to talk about family and friends.
第5回	Unit 2: Family and friends	Learning key vocabulary and how to talk about family and friends.
第6回	Unit 3: Around town	Giving and receiving directions. Learning key vocabulary about places and directions.
第7回	Unit 3: Around town	Giving and receiving directions. Learning key vocabulary about places and directions.
第8回	Unit 4: School and free time	Focusing on activities and how students spend their time.
第9回	Unit 4: School and free time	Focusing on activities and how students spend their time.
第10回	Unit 5: What's going on	Focus on present continuous tense and communicative tasks about activities in daily life.
第11回	Unit 5: What's going on	Focus on present continuous tense and communicative tasks about activities in daily life.
第12回	Unit 6: Numbers and money	Focus on both large and small numbers, how to pronounce them and difficulties faced by Japanese learners with some English numbers.
第13回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test and written exam.
第14回	Interview Tests	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.
担当者から一言		

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Ashley Mark Stevens	
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Outline: The course aims to develop and expand on learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	60% Final Interview Test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test. 25% Final Writing Test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% each and Writing Objective 3 is worth 50%
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English II	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Ashley Mark Stevens	
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画		
------	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric.
第2回	Unit 7: Memory and the past	Focusing on the past tenses and students' memories.
第3回	Unit 7: Memory and the past	Focusing on the past tenses and students' memories.
第4回	Unit 8: The real you	Communicative activities learning key adjectives to describe personalities.
第5回	Unit 8: The real you	Communicative activities learning key adjectives to describe personalities.
第6回	Unit 9: Favorites	Focus on comparatives and superlatives using communicative activities.
第7回	Unit 9: Favorites	Focus on comparatives and superlatives using communicative activities.
第8回	Unit 10: Let's eat	Focus on food, drinks and eating habits using role plays and communicative activities.
第9回	Unit 10: Let's eat	Focus on food, drinks and eating habits using role plays and communicative activities.
第10回	Unit 11: Experiences	Focus on the present perfect using communicative activities to talk about our past experiences.
第11回	Unit 11: Experiences	Focus on the present perfect using communicative activities to talk about our past experiences.
第12回	Unit 12: Future plans	Using the future tenses and communicative activities, students learn to talk about their futures.
第13回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test and written exam.
第14回	Interview Tests	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.

担当者から一言

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Gordon Maclaren	
講義コード	1110361	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and speech presentations. Our text is a play made up of 20 short parts, most of which one-third of student pairs will intensively study at home (= major homework every 3rd week). In normal class weeks, from April to June, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, movements and gestures as a class, then in pairs. After studying, the next week some pairs will perform the memorized scene as a test. Each student pair will do this four times. In July, those same student pairs will rewrite 5 pages worth of scene dialog, changing over half of it. Once the instructor corrects it, they will then perform 'their own' scene as a final test.

PAIR-ACT DRAMA SCENE (1/3 OF STUDENT PAIRS GRADED WEEKLY; FOLLOWING WEEK'S PRONUNCIATION PRACTICE)

到達目標

- (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
- (2) Students will be able to speak English with fluency.
- (3) Students will be able to speak English with good delivery.
- (4) Students will be able to speak grammatically correct English.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

授業外学習

Study 4 scenes for pair performance from memory (8 hours total) Pairs rewrite 75-90% of a 'new' scene based on Scenes VII & VIII (4 hours) Study this combined scene for end-of-term performance from memory (3 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars[New Version]		Drama Works, 2009	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Gordon Maclaren	
講義コード	1110362	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues. Our text is a play made up of 20 short parts, half of which each pair of students will study at home (= homework every 2nd week). Most weeks in class, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, choreography and gestures as a class. The next week, half of the class student pairs will perform the memorized scene. Each term, half the class -- in student pairs -- will rewrite then perform 1-2 scenes. In the middle of the other term (either June or November), students will individually write about themselves or something that interests them. This paper will form the basis of a private chat with me, conducted while the rest of the class is learning and listening to the dialog of an English movie.

到達目標

- (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
- (2) Students will be able to speak English with fluency.
- (3) Students will be able to speak English with good delivery.
- (4) Students will be able to speak grammatically correct English.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

授業外学習

Study 2 scenes for pair performance (5 hours total) Study two or three Screen Plays for movie quiz (3 hours total) Write an extensive 350-550 word report on your life, an autobiography, in English (7 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars [New Version]		(Drama Works, 2009)	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Karl Hedberg	
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Karl Hedberg	
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Explanation of the course,	Course introduction, useful English and self introductions.
第2回	Getting to Know You	Making friends and exchanging (or not exchanging) personal information.
第3回	Getting to Know You	Learning to learn 1, going beyond first introductions, Quiz 1.
第4回	Family & Friends	Quiz 2, Talking about your family, memory game 1, song 1.
第5回	Family & Friends	Talking about your friends and learning to learn 2.
第6回	Around Town	Quiz 3, Describing your hometown and game 2.
第7回	Around Town	Getting to know Shiga, song 2.
第8回	School & Free Time	Quiz 4, School life, part-time jobs and schedules
第9回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第10回	School & Free Time	Free time and hobbies. Comparing Japanese / American college life.
第11回	What's Going On?	Quiz 5, Talking on the phone, leaving messages.
第12回	What's Going On?	Making invitations and suggestions, song 3.
第13回	Numbers & Money	Quiz 6, Numbers and money.
第14回	Numbers & Money	Do the math!
第15回	Review, Review, Review	Review.
第16回	Final Exam	

担当者から一言

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Karl Hedberg	
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English II	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Karl Hedberg	
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Explanation of the course,	Course introduction, useful English and self introductions.
第2回	Memory and the Past	Talking about your weekend.
第3回	Memory and the Past	Quiz 1, Asking about the past.
第4回	The Real You	Quiz 2, Talking about your good and bad points, song 1.
第5回	The Real You	Your horoscope and learning to learn 2.
第6回	My Favorites	Quiz 3, Talking about books, movies, and music.
第7回	My Favorites	Which do you prefer...?, song 2.
第8回	Let's Eat!	Quiz 4, Talking about food and cuisine.
第9回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第10回	Let's Eat!	Tastes and textures.
第11回	Experiences	Quiz 5, Talking about some of you good and bad experiences.
第12回	Experiences	Have you...?, song 3.
第13回	Future Plans	Quiz 6, Can you see your future?
第14回	Future Plans	Hopes and dreams for the future.
第15回	Review, Review, Review	Review.
第16回	Final Exam	
担当者から一言		

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含まれます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500		旺文社	978010941751
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力をつけて

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含みます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500		旺文社	978010941751
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力をつけて

講義名	英語 A (充実コース) (人文)							担当教員	渡 寛法
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC頻出のテーマごとに、語彙や文法を学びながら、問題演習を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

- (1) TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (30%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『LIGHTING UP THE TOEIC TEST』	植木美千子ほか	金星堂	978-4-7647-4025-9
2				
3				

初回授業には時間を測れるストップウォッチ (スマートフォンでも計測機能があればOK) を持ってきてください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「意味順」で学ぶ英会話	田地野彰 (監修)	日本能率協会マネジメントセンター	978-4820749592
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
------	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方についての説明、ワークシートの記入。
第2回	Unit 1 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 1 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 2 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 2 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 3 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 3 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Review 1	ここまでの到達度確認テストを行う。
第9回	Unit 4 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 4 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 5 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 5 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 6 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 6 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Review 2	到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。

担当者から一言
「飛行機はいつも遅れ、頼んだ荷物は届かず、職場のコピー機はしょっちゅうインク切れ…」、そんなハードなTOEICワールドを楽しみつつ、英語力を磨いていきましょう!

講義名	英語 B (充実コース) (人文)							担当教員	渡 寛法
講義コード	1110542	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC頻出のテーマごとに、語彙や文法を学びながら、問題演習を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

- (1) TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (30%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『LIGHTING UP THE TOEIC TEST』	植木美千子ほか	金星堂	978-4-7647-4025-9
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「意味順」で学ぶ英会話	田地野彰 (監修)	日本能率協会マネジメントセンター	978-4820749592
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	Walter Klinger	
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English speaking and writing skills in enjoyable and educational communicative activities such as card games and TV comedy skits.
 Students write a one or two-page essay. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write better sentences. Students next read aloud their essay and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, in the mid-term test, students read aloud their essays to the teacher. The teacher gives grades for writing and speaking.
 For the final test, students say aloud to the teacher 4 pictures of everyday action sequences. Students also show to the teacher their written story about everyday events. The teacher gives grades for writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	Final Test: Action English Pictures & Never Ending Story. Students meet with the teacher one-by-one and say what is happening in 4 Action English Pictures that we studied in class. Each Speaking Objective is worth 25%. Students also show their written Never Ending
レポート課題		
上記以外	50	Mid-term Speaking & Writing test: Essay. Students read aloud to the teacher their original written essay. Speaking and Writing are each 50%. Each Speaking Objective on the rubric is worth 25% of the Speaking section. Writing Objectives 1 & 3 on

授業外学習

Homework:
One hour per week.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

HandoutsはHPからダウンロードできる。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

この授業では、リスニングとスピーキングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。ABC World Newsを用いたテキストでは、実際に放映されたニュースを視聴し、時事問題についても学んでいく。リスニング・ジャーナルなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティビティに積極的に取り組んで、さらに英語力を伸ばしていただきたい。

到達目標

- (1) スピーキング力を向上させる
- (2) リスニング力を向上させる
- (3) 積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む
- (4) 時事問題への理解を深める

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25%	到達目標 (1) について、期末英語スピーチによって評価
レポート課題		
上記以外	75%	到達目標 (1) について、単語クイズによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、リスニング・ジャーナルによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、聞き取りクイズによって評価 (15%)

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane/Kathleen Yamane	金星堂	9784764740310
2				
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)							担当教員	坂本 輝世
講義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方・評価方法の説明、自己紹介、TVニュースの英語
第2回	Unit 1 Treasury Secretary	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 2 Daylight Saving Time	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 3 Cuba's Gold Rush	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 4 Made in America	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	Unit 5 Firestorm	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第7回	Unit 6 Deadly Tornado Outbreak	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第8回	Unit 7 Zika Emergency	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第9回	Unit 8 Yelp! Reviewer Beware	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第10回	Unit 9 Bridge Dangers	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 11 Big Change	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 13 Major Abortion Case	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 14 On Alert: Faith and Fear	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第14回	Unit 15 Breaking Point	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第15回	English speech preparation	クイズ、期末スピーチ準備、English activities

担当者から一言

実際に放映されたTVニュースを視聴し、その後の経過について調べることで、日本語だけでは入手できない情報やもの見方を手に入れることができます。リスニング力とスピーキング力を向上させながら、刻一刻と変化する世界の情勢についても学んでいきましょう。

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆	
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

日本語字幕に頼らずに、アメリカで制作されたテレビドラマ"FULL HOUSE"を楽しみます。言語は他の人と情報を伝達しあうためのものですから、他の人と関わりあわないと英語運用能力は向上しません。ですから、ほかの学生とペアになつての演習や音読練習など、授業への積極的な参加が出席の必要条件となります。内容を確実に身につけているか確認するため小テストと台詞和訳の提出課題が毎回あります。必要であれば辞書を持参し、不明な点は各自で調べる癖をつけてください。

到達目標

(1) 語彙力の向上、(2) リスニング力の向上、(3) 読解力の向上、(4) 英語での思考力の向上、(5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10%、(2) リスニング力10%、(3) 読解力10%、(4) 英語での思考力10%、(5) 英語での発信力10%
レポート課題		
上記以外	50	小テスト等(1) 語彙力10%、(2) リスニング力10%、(3) 読解力10%、(4) 英語での思考力10%、(5) 英語での発信力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

セリフをすらすらと言いながら書けるまで復習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配布。プリントおよび音声データ等はアスポにてダウンロード可能。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でもよいので辞書を持参のこと。

前提学力等

3回生以上の特例処置で再履修を希望する学生は、本シラバスの内容に同意し、初回に出席しなければ受講を認めません。

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	第1話Our Very First Show その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第2回	第1話Our Very First Show その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第3回	第1話Our Very First Show その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第4回	第2話Our Very First Night その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第5回	第2話Our Very First Night その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第6回	第2話Our Very First Night その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第7回	第3話The First Day of School その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第8回	第3話The First Day of School その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第9回	第3話The First Day of School その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第10回	第4話The Return of Grandma その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第11回	第4話The Return of Grandma その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第12回	第4話The Return of Grandma その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第13回	第7話Knock Yourself Out その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第14回	第7話Knock Yourself Out その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認
第15回	第7話Knock Yourself Out その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認

担当者から一言

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。

講義名	英語 B (充実コース) (人文)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

日本語字幕に頼らずに、アメリカで制作されたテレビドラマ"FULL HOUSE"を楽しみます。言語は他の人と情報を伝達しあうためのものですから、他の人と関わりあわないと英語運用能力は向上しません。ですから、ほかの学生とペアになつての演習や音読練習など、授業への積極的な参加が出席の必要条件となります。内容を確実に身につけているか確認するため小テストと台詞和訳の提出課題が毎回あります。必要であれば辞書を持参し、不明な点は各自で調べる癖をつけてください。

到達目標

(1) 語彙力の向上、(2) リスニング力の向上、(3) 読解力の向上、(4) 英語での思考力の向上、(5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10%、(2) リスニング力10%、(3) 読解力10%、(4) 英語での思考力10%、(5) 英語での発信力10%
レポート課題		
上記以外	50	小テスト等(1) 語彙力10%、(2) リスニング力10%、(3) 読解力10%、(4) 英語での思考力10%、(5) 英語での発信力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

セリフをすらすらと言いながら書けるまで復習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配布。プリントおよび音声データ等はアスポにてダウンロード可能。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でもよいので辞書を持参のこと。

前提学力等

3 回生以上の特例処置で再履修を希望する学生は、本シラバスの内容に同意し、初回に出席しなければ受講を認めません。

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画									
回数	タイトル				概要				
第1回	第10話Joey's Place その1				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第2回	第10話Joey's Place その2				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第3回	第10話Joey's Place その3				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第4回	第11話The Big Three-0 その1				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第5回	第11話The Big Three-0 その2				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第6回	第11話The Big Three-0 その3				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第7回	第13話Sisterly Love その1				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第8回	第13話Sisterly Love その2				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第9回	第13話Sisterly Love その3				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第10回	第17話Danny's very first date その1				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第11回	第17話Danny's very first date その2				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第12回	第17話Danny's very first date その3				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第13回	第22話D.J. Tanner's Day Off その1				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第14回	第22話D.J. Tanner's Day Off その2				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
第15回	第22話D.J. Tanner's Day Off その3				1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英文練習 4.重要表現の確認				
担当者から一言									
授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。									

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Final Speaking Test (50%).

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction and Useful English	Explanation of schedule and assignments. Useful English - question patterns for understanding. 1 page essay structure.
第2回	People Talk	Present simple tense and 'Wh' questions for introductions and small talk.
第3回	Describing Places and Objects/Expressive Speech.	There is/There are/Prepositions of place. Encoding and reproducing expressive speech qualities (Rhythm, Intonation, Stress, Gesture).
第4回	Habits and Routines	Adverbs of frequency, talking about time. Describing a typical day.
第5回	Actions I	Using the present progressive tense to describe current/ongoing actions and future plans.
第6回	Actions II	Mixing the past simple and past progressive forms. What is Mr. Bean doing? exercise.
第7回	Acting Expressively: Radio Play	Students will read, practice and perform a short detective mystery script focusing on expression and good pronunciation.
第8回	Buying and Selling	Shopping role-plays and common phrases. Review the usage of 'much/many, some/any'. Asking questions about products and services.
第9回	Mid Term Test	Students read aloud their essay project to the teacher.
第10回	Where am I?	Giving and asking for directions. Place and business vocabulary.
第11回	Travel and Vacations	Making comparisons between places, people and objects. Talking about travel and ideal destinations.
第12回	Picture Stories	Using past forms and time-order signals to make a narrative about the past. Talking about childhood and school days.
第13回	Modal Mastery	Using modal verbs in different contexts to express permission, obligation, advice and possibilities.
第14回	Food Culture/Speaking Tests	Restaurant English role-plays. Describing food and expressing preferences. Some students will have a short Q&A speaking test with the teacher.
第15回	Leisure and Entertainment/Speaking Tests	Expressing likes/dislikes with reasons. Some students will have a short Q&A speaking test with the teacher.

担当者から一言

Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Comedy Sketch Performance Test (50%).

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction/Future Forms	Explanation of schedule and assignments. Using the 'will' future form. 10 years from now exercise.
第2回	How do I?	Use of verb-ing after prepositions to describe how something happens. Giving instructions, advice, making suggestions.
第3回	Interested or Interesting?	Using adjective forms to express feeling or describe object qualities. Talking about University studies. Adverbs of manner.
第4回	Simple Conditionals	Using the first conditional to ask and answer questions about realistic or probable outcomes.
第5回	Comedy Sketch I	Students will read, rehearse and perform a TV comedy sketch.
第6回	Facts, Figures and Money	Describing trends and patterns in data. How to say long numbers. Talking about prices and personal budgets.
第7回	Comedy Sketch II	Students will read, rehearse and perform a TV comedy sketch.
第8回	To-infinitive and beyond!	Review of the flexible to-infinitive form to express purpose, feelings, wishes and opinions. Combinations with relative clauses.
第9回	Mid Term Test	Students read aloud their essay project to the teacher.
第10回	Expressing Opinions	Review and practice of common phrases used to express nuanced opinions (strong, neutral, tentative). Discussions of Japanese advertising.
第11回	Careers and Personal Development	Usage of will and 'be going' forms to express plans and predictions about the future. Discussion of career plans.
第12回	If I were you...	Use of second conditionals to talk about unrealistic or unlikely future situations. The 'If you' game.
第13回	Tourist Troubles	Role playing tourist complaints in different service situations (Hotel, restaurants, repair shop). Review and practice key phrases.
第14回	Socialising/Comedy Sketch Test	Informal vs. formal introductions. Making extended small talk. Useful phrases for socialising. Some students perform comedy sketch test.
第15回	The English Games	Students compete in a round of different language games that test grammar/vocabulary skills. Some students perform comedy sketch test.

担当者から一言

Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語 A (展開コース) (人文)							担当教員	坂元 敦子
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業では、旅行に関する英語表現を学びながら総合的な英語力をつけ、世界の人とコミュニケーションができるような力をつけることを目指します。テキストは出入国や機内での会話、現地で道を聞く、掲示を読む、書類に記入する、ホテルにチェック・インする、レストランで食事をする・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することにより基本的な表現を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取り組み、高得点取得を目指します。

到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、使えるようになる。
- (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。
- (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。
- (4) TOEICのスコアをのばす。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、授業で行うTOEIC模擬試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それをを用いて学習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641
2				
3				

辞書を毎回持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)							担当教員	坂元 敦子
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方/ 自己紹介
第2回	On an Airplane	リスニング/会話練習/空港のチェックポイントの確認。
第3回	At Immigration and Customs	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第4回	Getting to a Hotel	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第5回	Checking into a Hotel	リスニング//会話練習/Translation/TOEIC問題
第6回	At a Restaurant	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第7回	Taking a Subway	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第8回	中間テスト	授業で学んだ表現を身につけていることを確認する。
第9回	Asking for Direction	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第10回	Fast Food Restaurant	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第11回	At a Bank	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第12回	Hotel Services	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第13回	Placing a Phonecall	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第14回	Visiting a Campus	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第15回	発表/まとめ	課題発表とまとめ。

担当者から一言

授業で使用するテキストは米国の航空会社協力のもと作成された、実践的なものです。こうしたやりとりを学ぶことで、将来英語を使って仕事をする
ことへの興味や意識を持って下さい。授業では、航空会社での私の体験談等を交えながら米国の社会事情を紹介します。皆さん自身がまずは海外

講義名	英語 B (展開コース) (人文)							担当教員	坂元 敦子
講義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、前期に学習した旅行に関する英語表現をさらに発展させて学び、総合的な英語力をつけ、世界の人とよりスムーズにコミュニケーションできる力をつけることを目指します。テキストは現地で電話をかける、買い物をする、ホテルのチェック・アウトをする、問題を解決する・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することによりよりスムーズに表現できる力を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取り組み、高得点取得を目指します。

到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、よりスムーズに使えるようになる。
- (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。
- (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。
- (4) TOEICのスコアをのばす。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、12月に実施されるTOEIC試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それをを用いて学習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641
2				
3				

辞書を毎回持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	吉田 亞矢	
講義コード	1110751	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

世界で使用されている様々な英語を“World Englishes”と呼ぶことがあるが、今や英語は英語母語話者と話すためだけに必要な言語ではなく、この呼称が物語るように、英語非母語話者の人々との意思疎通を図るためにも有用な言語である。前期は、世界各国を旅するレポーターからの英語ニュースとインタビューを視聴しながら、その国の言語・文化への理解を深めつつ、総合的な英語力を養う。テキストの各章は、リーディングとリスニングの構成になっているが、英語でレポートを作成したり(ライティング)、英語の質問に対して英語で答え、それを録音する(スピーキング)などの課題も随時提示される。受講者には、翻訳作業を除いて、可能な限り英語で受け答えをし、ディスカッションすることが求められる。

到達目標

- (1) “World Englishes” の概念を理解し、それについて自らの意見を述べる
- (2) 各国の旅事情、世界の英語事情について議論し、その結果を英語で発表する
- (3) 世界の国々の特色について、英語で簡潔に説明する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)について、期末テストを行い、全体の40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標(2)について、到達度確認テストを行い、全体の30%として評価。 到達目標(3)について、隔週の小テスト(10%)および各回のレポート作成・録音作業(20%)にて全体の30%として評価。

<出席について>

授業への積極的な参加は前提である。出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものは無い。なお、正当な理由なく4回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。遅刻は3回で欠席1回とみなし、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

授業外学習

これまでの学習内容、これからの学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	On Board for More World Adventures	Scott Berlin・小林めぐみ	金星堂	978-4-7647-3991-8
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。また、受講者自らが問題に取り組み、理解を深めて

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English as a Global Language	David Crystal	Cambridge University Press	978-1107611801
2				
3				

・適宜、授業中にプリント配布する。

前提学力等

<辞書について>

外国語学習にとって辞書は必須アイテムである。英語の電子辞書または紙媒体の辞書を必ず持参すること。なお、携帯電話やスマートフォンなどの

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)							担当教員	吉田 亞矢
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

前期に引き続き、世界各国を旅するレポーターからの英語ニュースとインタビューを視聴しながら、その国の言語・文化への理解を深めつつ、英語の四技能（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養う。後期は特に、英語が世界共通語と呼ばれるまでに至った背景的知識を得るため、サブテキストとしてDavid Crystal著 English as a Global Language を参照する。前期同様、受講者には、翻訳作業を除いて、可能な限り英語で受け答えをし、ディスカッションすることが求められる。リーディングとリスニング問題を軸に、英語でレポートを作成したり（ライティング）、英語の質問に対して英語で答え、それを録音する（スピーキング）などの課題も随時提示される。

到達目標

- (1) “World Englishes” に関する発展問題に、自らの意見や引用文を用いて解答する
- (2) 世界の旅事情、今後の英語事情について議論し、その結果を英語で発表する
- (3) 世界の国々の特色について、英語で詳細に説明する

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 (1) について、期末テストを行い、全体の40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 (2) について、到達度確認テストを行い、全体の30%として評価。 到達目標 (3) について、隔週の小テスト(10%)および各回のレポート作成・録音作業(20%)で評価。

<出席について>

授業への積極的な参加は前提である。出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。なお、正当な理由なく4回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。遅刻は3回で欠席1回とみなし、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

授業外学習

これまでの学習内容、これからの学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	On Board for More World Adventures	Scott Berlin・小林めぐみ	金星堂	978-4-7647-3991-8
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。また、受講者自らが問題に取り組み、理解を深めて

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English as a Global Language	David Crystal	Cambridge University Press	978-1107611801
2				
3				

・適宜、授業中にプリント配布する。

前提学力等

<辞書について>

外国語学習にとって辞書は必須アイテムである。英語の電子辞書または紙媒体の辞書を必ず持参すること。なお、携帯電話やスマートフォンなどの

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)							担当教員	坂元 敦子
講義コード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業では、旅行に関する英語表現を学びながら総合的な英語力をつけ、世界の人とコミュニケーションができるような力をつけることを目指します。テキストは出入国や機内での会話、現地で道を聞く、掲示を読む、書類に記入する、ホテルにチェック・インする、レストランで食事をする・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することにより基本的な表現を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取り組み、高得点取得を目指します。

到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、使えるようになる。
- (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。
- (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。
- (4) TOEICのスコアをのばす。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、授業で行うTOEIC模擬試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それをういて学習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641
2				
3				

辞書を毎回持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)							担当教員	坂元 敦子
講義コード	1110762	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、前期に学習した旅行に関する英語表現をさらに発展させて学び、総合的な英語力をつけ、世界の人とよりスムーズにコミュニケーションできる力をつけることを目指します。テキストは現地で電話をかける、買い物をする、ホテルのチェック・アウトをする、問題を解決する・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することによりよりスムーズに表現できる力を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取り組み、高得点取得を目指します。

到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、よりスムーズに使えるようになる。
- (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。
- (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。
- (4) TOEICのスコアをのばす。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、12月に実施されるTOEIC試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それをを用いて学習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641
2				
3				

辞書を毎回持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	真田 満	
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

TEDからの素材を使い、英文を読み、Video教材を視聴することで、英語の読解力と聴解力を伸ばす。また、批判的にテキストを読み、聞く力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。英語を読み、聞くだけの受け身の授業ではなく、教科書の文章をもとに、英語を書き、話す際の表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

到達目標

テキストの英文を正確に理解できる。
 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。
 正しい文法を身につけ、英語を書くことができる。
 正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 と について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 と に関し、2回小テストを行い、評価の30%とする。 到達目標 と に関しては、毎回の宿題と授業でのプレゼンテーションをもとに、評価の30%とする。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
 30分以上の遅刻は認めない。
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかりと行うこと。
 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答していただくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage	9781305965041
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	真田 満	
講義コード	1110772	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

TEDからの素材を使い、英文を読み、Video教材を視聴することで、英語の読解力と聴解力を伸ばす。また、批判的にテキストを読み、聞く力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。英語を読み、聞くだけの受け身の授業ではなく、教科書の文章をもとに、英語を書き、話す際の表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

到達目標

テキストの英文を正確に理解できる。
 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べるができる。
 正しい文法を身につけ、英語を書くことができる。
 正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 と について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 と に関し、2回小テストを行い、評価の30%とする。 到達目標 と に関しては、毎回の宿題と授業でのプレゼンテーションをもとに、評価の30%とする。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
 30分以上の遅刻は認めない。
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかりと行うこと。
 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答していただくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage	9781305965041
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース)(人文)							担当教員	真田 満
講義コード	1110772	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	英語IVAで学んだことの復習
第2回	Unit 7. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第3回	Unit 7. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第4回	Unit 8. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第5回	Unit 8. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第6回	Unit 9. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第7回	Unit 9. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第8回	1st Quiz and Review	第1回小テスト これまでの復習
第9回	Unit 10. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第10回	Unit 10. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第11回	Unit 11. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第12回	Unit 11. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第13回	2nd Quiz and Review	第2回小テスト これまでの復習
第14回	Unit 12. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第15回	Unit 12. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
担当者から一言		
英和辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。		

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業では、さまざまなアクティビティーによって、リスニングとスピーキングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。ABC World Newsを用いたテキストでは、実際に放映されたニュースを視聴し、時事問題についても学んでいく。フリップライティングのテキストでは、50 words程度の比較的易しい英語を使って、自分の考えを英語で発信する練習を行う。リスニング・ジャーナルなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティビティーに積極的に取り組んで、英語力を伸ばしていただきたい。

到達目標

- (1) スピーキング力を向上させる
- (2) リスニング力を向上させる
- (3) 積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む
- (4) 時事問題への理解を深める

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25%	到達目標 (1) について、期末英語スピーチによって評価
レポート課題		
上記以外	75%	到達目標 (1) について、単語クイズによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、リスニング・ジャーナルによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、聞き取りクイズによって評価 (15%)

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane/Kathleen Yamane	金星堂	9784764740310
2	Write Your Ideas in 50 Words	Tetsuhito Shizuka	松柏社	9784881986899
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方・評価方法の説明、自己紹介、TVニュースの英語
第2回	Unit 1 Treasury Secretary	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 1 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 2 Daylight Saving Time	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 2 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	Unit 3 Cuba's Gold Rush	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第7回	Unit 3 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第8回	Unit 4 Made in America: Super Bowl 50	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第9回	Unit 4 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第10回	Unit 5 Firestorm	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 5 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 6 Deadly Tornado Outbreak	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 6 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第14回	Unit 7 Zika Emergency	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第15回	English speech preparation	クイズ、期末スピーチ準備、English activities

担当者から一言

実際に放映されたTVニュースを視聴し、その後の経過について調べることで、日本語だけでは入手できない情報やもの見方を手に入れることができます。リスニング力とスピーキング力を向上させながら、刻一刻と変化する世界の情勢についても学んでいきましょう。

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、前期に引き続き、リスニングとスピーキングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。ABC World Newsを用いたテキストでは、実際に放映されたニュースを視聴し、時事問題についても学んでいく。フリップライティングのテキストでは、50 words程度の比較的易しい英語を使って、自分の考えを英語で発信する練習を行う。リスニング・ジャーナルなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティビティに積極的に取り組んで、さらに英語力を伸ばしていってほしい。

到達目標

- (1) スピーキング力を向上させる
- (2) リスニング力を向上させる
- (3) 積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む
- (4) 時事問題への理解を深める

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25%	到達目標 (1) について、期末英語スピーチによって評価
レポート課題		
上記以外	75%	到達目標 (1) について、単語クイズによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、リスニング・ジャーナルによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、聞き取りクイズによって評価 (15%)

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane/Kathleen Yamane	金星堂	9784764740310
2	Write Your Ideas in 50 Words	Tetsuhito Shizuka	松柏社	9784881986899
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a)							担当教員	森 将豪
講義コード	1130090	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報処理技術の習得は日常生活に資するだけでなく、大学で学ぶ上で情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要な情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と検索ツールを用いた文献資料検索技術、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに、情報倫理についても学ぶ。そして、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。

到達目標

- (1) 大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること、情報ネットワークの活用によって学術情報検索の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること、情報倫理についても理解を深めること。
- (2) 論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること。
- (3) 設定した問題に対し、彼我の論点を整理・対比させ、論理的に結論づけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す (1)大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること、情報ネットワークの活用によって学術情報検索の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること、情報倫理についても理解を深めること、(2)論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること、(3)設定した問題に対し、彼我
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストに代わる授業資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	知の技法：東京大学教養学部「基礎演習」テキスト	小林康夫・船曳建夫	東京大学出版会	4130033050/978-4130033053
2				
3				

前提学力等

キーボードからの入力に慣れておくこと。

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要な情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学术论文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学术论文発表の手法を習得する。

到達目標

(1) 情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても取得すること。
(2) 学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。
上記以外	50%	情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても取得すること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c)							担当教員	森 将豪
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報処理技術の習得は日常生活に資するだけでなく、大学で学ぶ上で情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要な情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と検索ツールを用いた文献資料検索技術、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに、情報倫理についても学ぶ。そして、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。

到達目標

- (1) 大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること、情報ネットワークの活用によって学術情報検索の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること、情報倫理についても理解を深めること。
- (2) 論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること。
- (3) 設定した問題に対し、彼我の論点を整理・対比させ、論理的に結論づけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す (1)大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること、情報ネットワークの活用によって学術情報検索の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること、情報倫理についても理解を深めること、(2)論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること、(3)設定した問題に対し、彼我
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストに代わる授業資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	知の技法：東京大学教養学部「基礎演習」テキスト	小林康夫・船曳建夫	東京大学出版会	4130033050/978-4130033053
2				
3				

前提学力等

キーボードからの入力に慣れておくこと。

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c)						担当教員	森 将豪	
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業種別			講義
ナンバリング番号	1011NF102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	情報処理環境の基本構成と操作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報処理（演習室）環境の基本構成と利用方法 ・ パスワードの設定
第2回	情報処理環境の慣熟操作と各種設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報処理（演習室）環境の慣熟操作 ・ 電子メールおよびインターネット環境の設定
第3回	情報倫理について ～情報の保護と責務～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報の管理とインターネット使用上の留意点 ・ 電子メールの使い方について
第4回	文書作成ソフトウェアの基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文書作成ソフトウェアの起動と作成文書の保存(先) ・ 文書作成ソフトによるレポート作成の基本事項
第5回	表現の形態 ～論文を書くとは～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論文を書くとはどのようなことか、レポートとの相違点 ・ レポートを書くときの注意点、論文の標準的なスタイル
第6回	論文作法 - 1 ～書式設定の詳細～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文書を入力する（書く）前に必要なこと ・ 書式設定の詳細（マージン、フォントとサイズ、段組、等）
第7回	図書館活用ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料検索ツールおよび図書館での資料検索技術の習得
第8回	論文作法 - 2 ～論文の構成～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な入力法（章だて、段落、脚注、インデント、など）
第9回	論文作法 - 3 ～表データの可視化～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作表および表データの可視化 ・ エクセルからの可視化データの読み込み、等
第10回	論文作法 - 4 ～論文の形式～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論文の形式と文章の特徴（文体）
第11回	情報倫理について ～剽窃は犯罪～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信と著作権侵害 ・ 知的財産権について
第12回	論文作法 - 5 ～剽窃防止と文献引用～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 剽窃防止の徹底と文献引用の仕方について ・ 知的所有権と情報へのアクセスの確保
第13回	論文作法 - 6 ～論文発表の基本～	<ul style="list-style-type: none"> ・ パワーポイントを用いた論文発表の基本とその注意点
第14回	表現の形態 ～まとめ～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論文作法のまとめ ・ 作成課題（「表現の形態～論文を書くこと」）の印刷
第15回	課題レポートの準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題レポート（小論文）について
担当者から一言		
実習が主になる授業ですので、授業で習った内容について次の授業までに必ず復讐しておく必要があります。		

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d)							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130120	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d)							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130120	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業計画		
------	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	講義概要	演習室利用上の注意、環境設定
第2回	図書検索	文献検索の方法
第3回	Windowsの基本	基本操作、タッチタイピング、日本語入力
第4回	電子メール	電子メールのしくみ、マナー
第5回	情報倫理（１）	インターネットの利用と安全性
第6回	情報倫理（２）	著作権、研究倫理
第7回	WORDによる文書作成（１）	基本操作
第8回	WORDによる文書作成（２）	書式
第9回	WORDによる文書作成（３）	表
第10回	WORDによる文書作成（４）	図
第11回	Excelによる表計算（１）	基本操作
第12回	Excelによる表計算（２）	書式
第13回	Excelによる表計算（３）	関数
第14回	Excelによる表計算（４）	グラフ
第15回	総合演習	WordとExcelの連携による文書作成

担当者から一言

講義名	情報科学概論(人文b)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	情報科学概論(人文a)							担当教員	森 将豪
講義コード	1130210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術を含む情報リテラシーの習得を前提とし、高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。
特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。
さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) 数式バーに自由に計算式を書くことができ、かつ組込関数も利用できる。
- (2) 表の可視化を行うことができ、それについて科学的な考察を加えることができる。
- (3) What-If分析を理解し、応用できる。
- (4) 回帰分析を理解し、収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる。
- (5) アンケート分析の手法を理解するとともにクロス集計ができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す(1)数式バーに自由に計算式を書くことができ、かつ組込関数も利用できる。(2)表の可視化を行うことができ、それについて科学的な考察を加えることができる。(3)What-If分析を理解し、応用できる。(4)回帰分析を理解し、収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる。(5)アンケート分析の手法を理解すると
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストに代わる授業資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初等統計学	P.G.ホーエル	培風館	978-4563008390
2				
3				

授業中に随時担当教員から示される。

前提学力等

レポートと学術論文の基本概念を理解(講義「情報リテラシー」を修得)していること。
初等統計学の基礎を理解していることが望ましい。

履修資格

講義名	情報科学概論(人文c)							担当教員	森 将豪
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術を含む情報リテラシーの習得を前提とし、高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。
特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。
さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) 数式バーに自由に計算式を書くことができ、かつ組込関数も利用できる。
- (2) 表の可視化を行うことができ、それについて科学的な考察を加えることができる。
- (3) What-If分析を理解し、応用できる。
- (4) 回帰分析を理解し、収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる。
- (5) アンケート分析の手法を理解するとともにクロス集計ができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す(1)数式バーに自由に計算式を書くことができ、かつ組込関数も利用できる。(2)表の可視化を行うことができ、それについて科学的な考察を加えることができる。(3)What-If分析を理解し、応用できる。(4)回帰分析を理解し、収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる。(5)アンケート分析の手法を理解すると
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストに代わる授業資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初等統計学	P.G.ホーエル	培風館	978-4563008390
2				
3				

授業中に随時担当教員から示される。

前提学力等

レポートと学術論文の基本概念を理解(講義「情報リテラシー」を修得)していること。
初等統計学の基礎を理解していることが望ましい。

履修資格

講義名	情報科学概論（人文c）							担当教員	森 将豪
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	情報処理環境の慣熟操作と表計算ソフトの概要	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフト(S-sheet)の概要 Excel機能のいくつかの重要なポイント
第2回	セルの概念と基本操作	<ul style="list-style-type: none"> カーソルの形と意味・文字列、数値、数式、書式設定 データの移動・複写・変更・消去、等
第3回	行と列の基本操作	<ul style="list-style-type: none"> 行・列データの計算・数式を自分で書くvs組込関数群 表の装飾、表データの可視化
第4回	What-If分析 - 1	<ul style="list-style-type: none"> ケーススタディ・モデル 相対番地と絶対番地
第5回	What-If分析 - 2	<ul style="list-style-type: none"> 利益計画シミュレーション シナリオマネージャ
第6回	What-If分析 - 3	<ul style="list-style-type: none"> Diet Planモデル IF文とゴールシーク
第7回	回帰分析	<ul style="list-style-type: none"> 分析ツール 相関図と回帰分析、回帰直線、最小2乗法
第8回	単回帰分析	<ul style="list-style-type: none"> 度数分布表と散布図 グラフに合う回帰直線の式、重決定係数
第9回	演習（課題） ～表にまとめて可視化する～	<ul style="list-style-type: none"> 課題の演習
第10回	重回帰分析	<ul style="list-style-type: none"> 分析ツールと説明変数が2つの場合 p値の理解
第11回	データ集計 - 1	<ul style="list-style-type: none"> アンケート分析の方法 頻度の集計、合計・平均、階級別ヒストグラム化
第12回	データ集計 - 2	<ul style="list-style-type: none"> クロス集計とピボットテーブル 集計方法
第13回	データベース機能 - 1	<ul style="list-style-type: none"> リレーショナルデータベース ソーティングと検索
第14回	データベース機能 - 2	<ul style="list-style-type: none"> フィルタリング マクロ処理（プログラミング）
第15回	課題レポートの準備	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 課題レポートについて

担当者から一言

実習が主になる授業ですので、授業で習った内容について次の授業までに必ず復讐しておく必要があります。

講義名	情報科学概論(人文d)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
(2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	情報科学概論(人文d)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業計画									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理
第2回	フォルダー作成	データ処理とファイル処理
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用
第9回	統計処理の基本	学術論文の概念と統計処理の基本
第10回	統計データ処理	学術論文の書式と統計データ処理の基本
第11回	グラフの処理	学術論文の書式と統計処理とグラフの処理
第12回	回帰分析	学術論文の書式と回帰分析
第13回	データの検定	学術論文の作成とデータの検定
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ

担当者から一言									

講義名	人間探求学(生活デザイン)						担当教員	学科教員/印南 比呂志/面矢 慎介/ 佐々木 一泰/藤木 庸介/南 政宏/ 宮本 雅子/森下 あおい/山田 歩/ 横田 尚美	
講義コード	1150360	単位数	2	開講期	前期	授業種別			講義
ナンバリング番号	101HUM101								

授業概要

この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。学科の1年生を少人数グループ(3~4名)に分け、担当教員を割り当てる。学期を前半と後半に分け、各グループは前半と後半とでそれぞれ別の教員から指導を受ける。

到達目標

- (1)自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養う。
- (2)多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	出席を重視する。3回以上の欠席者は授業期間終了後に呼び出し、面談して個別に指導する。成績には授業での発言、レポート、プレゼンテーション等に対する各担当教員の評価を加味する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書：担当教員が指示する。

前提学力等

履修資格

講義名	人間探求学 (生活デザイン)							担当教員 学科教員/印南 比呂志/面矢 慎介/ 佐々木 一泰/藤木 庸介/南 政宏/ 宮本 雅子/森下 あおい/山田 歩/ 横田 尚美
講義コード	1150360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	101HUM101							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	履修計画も含め大学で学ぶべき内容について理解を深める。
第2回	レポートの書き方	講義等の課題として出されるレポートの書き方について解説する。
第3回	図書館の利用方法	図書館の利用の仕方、図書の検索方法についての説明を受ける。
第4回	消費者問題について	消費者問題に関する講義を受ける。
第5回	防犯について	防犯に関する講義を受ける。
第6回	人権学習	人権に関する講義を受ける。
第7回	グループワークA1	教員一人当たり3～4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第8回	グループワークA2	教員一人当たり3～4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第9回	グループワークA3	教員一人当たり3～4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第10回	グループワークA4	教員一人当たり3～4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第11回	グループワークB1	教員一人当たり3～4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第12回	グループワークB2	教員一人当たり3～4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第13回	グループワークB3	教員一人当たり3～4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第14回	グループワークB4	教員一人当たり3～4名のグループに分かれ指導を受ける。(計 8回)
第15回	環境整備活動	学部内の環境整備活動を行う。
担当者から一言		

講義名	川の未来学							担当教員	村上 修一
講義コード	1150451	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

本科目は、専門家あるいは一般市民として必ず関わりを有することになる、川の問題をとりあげる。まず、国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。次に、川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。その上で、川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

到達目標

- (1) 国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。
- (2) 川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。
- (3) 川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	到達目標 (1) : ワークシート1 (30%) 到達目標 (2) : ワークシート2 (30%) 到達目標 (3) : ワークシート3 (40%)

ワークシート1, 2, 3は、それぞれ第5, 10, 14回の授業時間内に履修生が記述し、回収される。第6, 11, 15回に解説が行われ、履修生は理解を深める。

授業外学習

授業時間内に紹介される参考図書資料や参考サイトを閲覧すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	第十堰日誌	姫野雅義	七つ森書館	978-4822811426
2	吉野川住民投票 市民参加のレシピ	武田真一郎	東信堂	978-4798911922
3	再帰的近代の政治社会学 吉野川可動堰問題と民主主義の実験	久保田滋 他	ミネルヴァ書房	978-4623050826

授業時間内に参考図書資料や参考サイトを紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	比較住居論							担当教員	藤木 庸介
講義コード	1150460	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM1761, 33RED121, 135LAH206								

授業概要

世界には、生態や文化、社会の違いにより、地域に固有な（ヴァナキュラーな）さまざまな住まいが存在する。ヴァナキュラーな住まいの空間について、主に中国、東南アジアから西アジア、インド、アフリカ、ヨーロッパの事例を紹介しながら、その形式や技術、住まいに対する思想について解説するとともに、風土、歴史、文化、社会制度、生活様式など多様な観点から、その構成原理を考える。

到達目標

- (1) 世界の多様な住居のあり方を理解し、事例を挙げて説明ができる。
- (2) 人々の生活と住居構成に関する相関性を理解し、説明ができる。
- (3) 様々な居住文化のあり方に対して、自らの生活を相対化して位置づけられる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に挙げた(1)(2)(3)の内容を包含した小テスト2回により評価。成績への寄与率は小テストの合計を100%とし、60%以上を合格とする。

授業外学習

教科書、並びに授業で配布されるプリントを復読することが望ましい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	住まいがたえる世界の暮らし-今日の居住文化誌	藤木庸介(編)	世界思想社	
2				
3				

教科書は2回目授業から使用する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書に記載の無い講義内容については、プリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	比較住居論							担当教員	藤木 庸介
講義コード	1150460	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM1761, 33RED121, 135LAH206								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	本講義の内容と目的、講義の進め方、評価の方法等を解説する。
第2回	中国の住居(1)	中国北部の居住文化と住居構成について解説する。
第3回	中国の住居(2)	中国中部の居住文化と住居構成について解説する。
第4回	中国の住居(3)	中国南部の居住文化と住居構成について解説する。
第5回	世界のトイレ事情・世界のスラム事情	世界におけるトイレ文化、スラム街とそこで暮らしなどについて解説する。
第6回	東アジアの住居(1)	台湾、フィリピン等の居住文化と住居構成について解説する。
第7回	東南アジアの住居(1)	インドネシア、マレーシア等の居住文化と住居構成について解説する。
第8回	東南アジアの住居(2)	タイ、ラオス、ベトナム等の居住文化と住居構成について解説する。
第9回	西アジアの住居(1)	イラク南部におけるかつての居住文化と住居構成について解説する。
第10回	西アジアの住居(2)	トルコにおけるかつての居住文化と住居構成について解説する。
第11回	インドの住居	インド北部の居住文化と住居構成について解説する。
第12回	アフリカの住居(1)	アフリカ北部の居住文化と住居構成について解説する。
第13回	アフリカの住居(2)	アフリカ北部の居住文化と住居構成について解説する。
第14回	ヨーロッパの住居	ヨーロッパ南東部の居住文化と住居構成について解説する。
第15回	まとめ	本講義の総括を行い、居住文化と住居構成の多様性について考察を行う。

担当者から一言

--

講義名	History of Japanese Cinema							担当教員	Carl John Boland
講義コード	1150540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

History of Japanese Cinema is a two-credit culture studies course that examines Japan's world-renowned cinematic output over the last one hundred years. The defining developmental periods and golden eras of Japanese cinema will be examined through the work of major studios, auteur directors and their landmark films. The course will contextualise changes within the film industry and aesthetic developments against the socio-cultural background of particular periods (e.g. post-war/late modern, postmodern).

到達目標

This course aims to:

1. Deliver a comprehensive introductory course on the history of Japanese narrative cinema; one tailored for students who are not film majors.
2. Instruct students on approaches to film analysis as a means to broaden their study of Japanese society and culture.
3. Encourage students to develop a scholarly appreciation of film.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	Mid-term paper (30%), Final Review paper (30%)
上記以外	40	Group Presentation: Film Review.

Students are required to write and submit two 'film review' papers (mid-term, final). Students will also complete a group presentation project - a critical review of a Japanese film.

授業外学習

This is a lecture-based course. Due to time limitations, only film clips will be screened in class. Students will be provided with access to lecture materials and readings online.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

No prior film studies knowledge is required. Non-native speakers of English should ideally have a solid intermediate skill level (e.g. TOEFL iBT score of around 70).

履修資格

講義名	Patterns in Japanese Culture & Society							担当教員	Carl John Boland
講義コード	1150550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

This introductory Japan studies course sets out to critically examine paradigms that have shaped academic and lay perceptions of Japanese social structures, identity and collective consciousness. The selection of topic domains is intended to underpin a broad based contextual analysis of contemporary social issues facing Japan. Concordantly, this enquiry is supported by an interdisciplinary conceptual framework that draws on salient perspectives from sociology, social psychology and cultural studies. The course adopts a simple unit structure and a lecture / seminar format. Students will be expected to participate actively in seminar discussions.

到達目標

1. To introduce the research principles that define interdisciplinary sociocultural studies.
2. To encourage students to adopt an interdisciplinary perspective towards sociocultural studies of Japan.
3. To stimulate informed debate about contemporary issues affecting Japanese society.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	Essay
上記以外	60	Seminar Review Questions [30] / Participation in group work and class discussions [30].

Students are required to write and submit: (1) A short essay on a relevant topic from the course, (2) Long paragraph answers to 4 review questions taken from the seminar classes.

授業外学習

教科書				
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	Patterns in Japanese Culture & Society							担当教員	Carl John Boland
講義コード	1150550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Lecture 1: Geopolitical History	Course Overview / Interdisciplinary Sociocultural Studies / Geopolitics and the shaping of modern Japan.
第2回	Seminar 1: Cross-Cultural Influence	Group work and class discussions. litoko-dori / From Japonisme to Cool Japan.
第3回	Lecture 2: Japan Studies	Japan Studies: Paradigms & Debates / Cultural Relativism / Emic & Etic Concepts.
第4回	Seminar 2: 'In the Field'	Ethnography and Fieldwork. Group work and discussions based on lecture 2 and HW readings.
第5回	Lecture 3: The Empire of Signs	Semiotics and Cultural Studies / Filmic Representations of Japan.
第6回	Seminar 3: Food Culture	Analysing Japanese Food Culture / Group work and discussions based on lecture 3 and HW readings.
第7回	Lecture 4: Lensing the Media	Patterns in the Japanese media / Censorship and scandals.
第8回	Seminar 4: Japanese Advertising	Analysing patterns in Japanese advertising / Group work and discussions based on lecture 4 and HW.
第9回	Lecture 5: Social Structure	The Family System / Social Stratification / Wealth & Cultural Capital / Social Order.
第10回	Seminar 5: Beneath the Veneer	Documentary Analysis / Group work and discussions based on lecture 5 and HW.
第11回	Lecture 6: The Japanese Mind	The Self and Social Identity / Collectivism / Emic Psychological Concepts.
第12回	Lecture 7: The Societal Conundrum	Japan's social demographic dilemmas / Economic impacts.
第13回	Seminar 6: Engineering Social Change	Group work and discussion based on lectures 6, 7 and HW.
第14回	Lecture 8: The Road Ahead	Recent Political History / Abenomics / Social Policy / Geopolitics / Regional Security.
第15回	Seminar 7: Japan 2020	Course Review / Group work and discussions / Essay preparation workshop.

担当者から一言

Students must have English skills that allow them to participate actively in class discussions as well as a good standard of academic writing for assignments. Having a TOEFL iBT level of 70 or higher is advisable, or a study abroad experience.

講義名	Model United States of America							担当教員	Benjamin John McCracken
講義コード	1150560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

Model USA is an educational simulation in which students will learn about the United States of America ("USA ") and its unique form of government. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a senator from one of the 50 states that make up the USA. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from the USA.

到達目標

(1) Students will learn about US history and how it impact the current policital environment. (2) Students will learn about the US governmental system and the role political parties play in it. (3) Students will learn current events and debate potential solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate in order to reach a solution to a problem.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	Students will write a three page paper on their expereince.
上記以外	80	Presentation 30 points x2 and 20 points for participation in class and group activities.

Students are expected to actively participate in class. Failure to actively participate will cause grades to be reduced.

授業外学習

Students will need to be aware of current events in the US. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	Model United States of America							担当教員	Benjamin John McCracken
講義コード	1150560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
------	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Course overview
第2回	Basic USA History	Lecture on US history
第3回	US Government I	Lecture on the US governmental system
第4回	US Government II	Lecture on the US governmental system
第5回	Seminar I	Group work - Students will be divided into states and assigned political parties and committees
第6回	Political Parties	Lecture on US political parties
第7回	Seminar II	Group work - Students prepare for presentations on US states and issue presentations
第8回	State Presentations I	Students present on their respective states
第9回	State Presentations II	Students present on their respective states
第10回	Seminar III	Group work - Students prepare for issue presentations
第11回	Issue and discussion I	Students present and discuss issue in mock debate
第12回	Issue and discussion II	Students present and discuss issue in mock debate
第13回	Issue and discussion III	Students present and discuss issue in mock debate
第14回	Issue and discussion IV	Students present and discuss issue in mock debate
第15回	Review	Course review and essay preparation workshop

担当者から一言
Students will be provided with all materials including handouts that are intended for self-study.

講義名	Model United Nations							担当教員	Benjamin John McCracken
講義コード	1150570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

Model United Nations is an educational simulation in which students will learn about the United Nations (UN) and its role in the world. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a representative of from one of the many nations that make up the UN. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from around the world.

到達目標

(1) Students will learn about the history of the United Nations and how it impacts our world. (2) Students will learn about parliamentary procedure and how issues are debated at the UN. (3) Students will learn current events and debate potential solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate in order to reach a solution to a problem.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	Students will write a three page paper on their experience.
上記以外	80	Presentation 30 points x2 and 20 points for participation in class and group activities.

Students are expected to actively participate in class. Failure to actively participate will cause grades to be reduced.

授業外学習

Students will need to be aware of current events in the world. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	建築法規							担当教員	戸川 勝紀
講義コード	1201270	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC225, 333RED224								

授業概要

法治国家の目的は、正義及び公平の原則に従って、社会を規律し、かつ法的安定性をもたらすことであり、社会秩序を維持し、国民間の利害を調整して国民に経済的・文化的に人間に値する生活を営ませることである。そして、建築基準法の目的は、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定めて、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することである。これらを踏まえて、都市デザイン、建築デザイン及び生活デザインを行うために、建築関係法令の役割及び規制の概説だけでなく、誘導及び取組み方も解説する。また、具体的な事例をもとに制限や可能性を解説し、都市、建築及び生活に取り巻く今日的課題と法整備の状況を解説する。

到達目標

(1) 法律制度を説明できる。(2) 建築法規の目的を説明できる。(3) 都市デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。(4) 建築デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。(5) 生活デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	定期試験を行う。100点満点のうち、60点以上を合格とする。
レポート課題		
上記以外		

毎回講義開始時に出席を確認する。
また、毎回小試験を行う。小試験も定期試験も、教科書1、教科書2及び講義ノートを開覧可能とするので、教科書への書き込み、講義ノートへの記帳をすると圧倒的に試験に有利である。故に初日から教科書1及び教科書2を用意しておくこと。

授業外学習

(成績評価備考2) 講義中に質問を行うので正解した学生には成績に大きく加点する。また、授業内容に関しての意見についても成績に加点する。発言に対しての減点はなく加点のみである。故に恥ずかしく思うこと無く果敢に発言を行い講義内容を習得されたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	平成29年版建築基準法〔法令編〕	国土交通省住宅局・日本建築学会編	技法堂	
2	史上最強図解よくわかる建築基準法	大脇賢次	ナツメ社	9784816348013
3				

教科書1及び教科書2は講義に必要となるので、必ず初日から持参すること。小試験及び定期試験中での閲覧が可能であることから、持参しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	建築法規							担当教員	戸川 勝紀
講義コード	1201270	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC225, 333RED224								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	総則に関する規定（用語の定義1）	建築物、特殊建築物、建築設備、特定行政庁等の建築の一般的な用語を学ぶ。
第2回	総則に関する規定（用語の定義2）	防火関係の用語、敷地面積、建築面積、床面積の用語を学ぶ。
第3回	総則に関する規定（用語の定義3）	延べ面積、地盤面、建築物の高さ、階数の用語を学ぶ。
第4回	建築の手続きなどに関する規定	建築する前の建築確認申請、建築途中の中間検査及び工事完了後の完了検査の規定について学ぶ。
第5回	良好な室内環境に関する規定（敷地、採光、換気等）	敷地、居室の採光、居室の換気等の建築環境について学ぶ。
第6回	良好な室内環境に関する規定（建築設備）	居室の高さ、界壁、シックハウス対策、建築設備について学ぶ。
第7回	構造強度に関する規定（構造計算と構造方法）	構造耐力、構造計算、構造方法、荷重と外力等、建築構造設計の原則について学ぶ。
第8回	構造強度に関する規定（各構造規定）	木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造などの規定について学ぶ。
第9回	防火に関する規定	耐火建築物等の規制、防火地域及び防火区画について学ぶ。
第10回	避難に関する規定	廊下及び出入口、階段、排煙、非常用の照明装置、非常用の進入口、非常用の昇降機等の避難規定について学ぶ。
第11回	都市計画区域内に関する規定（道路）	都市計画区域内における建築基準法上の道路、接道、壁面線等の規定について学ぶ。
第12回	都市計画区域内に関する規定（用途地域制限）	都市計画区域内の用途地域による建物の規制について学ぶ。
第13回	都市計画区域内に関する規定（容積率、建ぺい率）	都市計画区域内の容積率及び建ぺい率の規制について学ぶ。
第14回	都市計画区域内に関する規定（高さ制限）	都市計画区域内の絶対高さ、道路斜線、隣地斜線、北側斜線、日影規制等の高さ制限について学ぶ。
第15回	街づくりに関する規定	総合設計、一段地認定、建築協定等まちづくりに関して学ぶ。

担当者から一言

建築法規は非常に難しく誰にとっても習得しにくい学問であり、建築士を初め、行政法学者、弁護士及び裁判官でさえ、完全に理解している人は少ない。しかし、建築士の受験科目であり、建設業界では争訟が非常に多く、建築法規は行政法の中で非常に注目されており、困難である故に熟知し

講義名	一般構造							担当教員	佐々木 一泰
講義コード	1400070	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233RED222								

授業概要

建築やインテリアに関する技術論。建築物を成立させている部位の構成や仕組みがどのようなものかを理解し、建築やインテリアを学ぶ上で知っておきたい基礎的な建築技術の概要や構造、架構の知識を身につける。

到達目標

- (1) 建築技術、構造の全体像を把握する。
- (2) 各種構造を把握する。
- (3) 建築やインテリアに携わる人が必要とする建築技術専門用語を修得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	
レポート課題	20	
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	図説やさしい建築一般構造	今村仁美・田中美都 著	学芸出版社	978-4761524777
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	必携建築資料	柳原正人 他	実況出版株式会社	978-4-407-30782-5
2				
3				

前提学力等

建築やインテリアに関する技術論。技術に興味がある学生なら、分野を問わない。
2年次以降の履修が望ましい。

履修資格

講義名	インテリア計画論							担当教員	宮本 雅子
講義コード	1400080	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233RED221								

授業概要

ここでは主に住居の内部空間の設計に必要な知識を習得することを目的とする。まず、インテリア計画のプロセスを説明した上で、住宅の構造、構法および住宅のインテリア構成要素について解説する。その上で、各室における機能とインテリア計画上の要点についてグループワークを交えながら講義する。

到達目標

- (1)住居のインテリアを構成している要素を理解し、説明できる。
- (2)平面計画から住生活を読み解く力をつける。
- (3)実際のインテリア空間を観察、評価できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標の(1)住居のインテリアを構成している要素を理解し、説明できる、については、期末試験35%、レスポンスペーパー15%、(2)平面計画から住生活を読み解く力をつける、については、期末試験15%、レスポンスペーパー5%、(3)実際のインテリア空間を観察、評価できる。については、レポート30%で評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	インテリアの計画と設計		彰国社	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	インテリアコーディネート概説							担当教員	藤木 庸介
講義コード	1400088	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	333RED222								

授業概要

生活に関わるデザイン現場において、インテリアコーディネートに対する基礎知識は今や必須の要件と言えよう。ここでは特に、店舗や住宅におけるインテリアコーディネートの実践について、実社会やデザイン現場で必要不可欠、且つ、有用な知識を習得する。尚、本演習で習得する知識は、公益社団法人インテリア産業協会が主催する「インテリアコーディネーター資格試験」に応用可能な知識と成り得る。

到達目標

- (1) インテリアコーディネートの基礎知識を習得し、実社会において応用する事ができる。
- (2) 公益社団法人インテリア産業協会が主催する「インテリアコーディネーター資格試験」の合格に必要な知識を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に記載した(1)(2)の内容を包含した小テスト3回により評価。成績への寄与率は小テストの合計を100%とし、60%以上を合格とする。

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

インテリアコーディネーター資格試験の合格を目指す者は、継続的な自主勉強が必要であり、予習復習が必須である。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	インテリアコーディネーター資格試験年度別過去問題集	HIPS合格対策プロジェクト(編)	ハウジングエージェンシー	
2	インテリアコーディネーター1次試験合格教本(上巻)	HIPS合格対策プロジェクト(編)	ハウジングエージェンシー	
3	インテリアコーディネーター1次試験合格教本(下巻)	HIPS合格対策プロジェクト(編)	ハウジングエージェンシー	

問題集と合格教本は毎年更新されるので、最新のものを入手すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環琵琶湖文化論実習（生活デザイン）						担当教員	学科教員 / 印南 比呂志 / 面矢 慎介 / 佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 南 政宏 / 宮本 雅子 / 森下 あおい / 山田 歩 / 横田 尚美	
講義コード	1400340	単位数	1	開講期	通年	授業種別			実習
ナンバリング番号	133LVD101								

授業概要

滋賀県の歴史、文化、生活をその対象として実習をおこなう。各学科ごとに地域、テーマ別に班編成をし、事前学習、泊りがけでの実習、さらに実習後の報告書の作成をおこなう。

到達目標

- (1)フィールドワークをおこなうことによって、地域の歴史、文化、生活に対する意識を高める。
(2)調査の手法、報告書のまとめかた等の技術を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標の(1)フィールドワークをおこなうことによって、地域の歴史、文化、生活に対する意識を高める、については、実習への参加・貢献80%、(2)調査の手法、報告書のまとめかた等の技術を習得する、については、事前学習への貢献10%、事後学習への貢献10%で評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキスト：各班担当の教員の指示による

前提学力等

履修資格

講義名	基礎設計製図							担当教員	南 政宏 / 藤木 庸介
講義コード	1400430	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	133RED221								

授業概要

建築設計製図に必要な基本的な製図技術と技法を習得する。建築家による設計図面のトレースや、模型の制作によって、製図や模型制作の基礎を学ぶ。アクソメトリックやインテリアパースの作成によって空間の視覚的な表現力を身に付ける。建築の基礎的な表現技法を学ぶとともに、図面を通して空間を想像し把握する力を養う。小規模な空間を自身で設計することで、空間的思考力と計画力、製図能力を習得する。

到達目標

- (1) 建築製図の基本的なルールを理解し、製図技法を習得する。
- (2) 建築模型の製作技法を習得する。
- (3) 小規模空間を計画し、破綻のない設計が出来るようになる。
- (4) 自身の制作物や設計のプレゼンテーションが出来るようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	課題の提出物(80%) 講評会でのプレゼンテーション(20%)

全課題の提出が単位認定の最低条件とする(一つでも課題未提出がある場合は単位不認定)
成績は全ての課題作品評価の合計点に、講評会でのプレゼンテーション評価を加えて算出する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初歩からの建築製図	藤木庸介・柳沢究(編著)	学芸出版社	ISBN978-4-7615-2587-3
2				
3				

第3回目授業までに指定した教科書を用意すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	基礎服飾デザイン							担当教員	横田 尚美 / 山田 歩
講義コード	1400440	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	133FSD261								

授業概要

服飾デザインの基礎知識を身につける。服飾デザインに必要な専門用語や商品知識を学び、服飾が持つ文化的な側面にも目を向けさせる。服飾デザインを生活者視点から捉えるために、ファッションマーケティングについても学ぶ。実際の企業やブランドを題材に用いて、リサーチの演習を行う。

到達目標

- (1) 服飾について最低限の専門用語や商品知識がわかる。
- (2) 基本的なアイテムの構造について理解できる。
- (3) ファッションマーケティングの知識や手法についてわかる。
- (4) ファッションマーケティングに関するリサーチができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		到達目標(1)(2)については、毎回の授業態度とリアクションペーパー、提出物と宿題になるレポートによって評価する(50%)。 同じく(3)(4)については、授業課題とプレゼンテーションによって評価する(50%)。

授業外学習

授業でまとめきれなかった分を宿題とすることがある。また、事前に課題を与えることがある。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前半については、中高の家庭科の教科書を持っていれば、それを参考にしてほしい。持参してもらう場合があるかもしれない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内で適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	基礎服飾デザイン							担当教員	横田 尚美 / 山田 歩
講義コード	1400440	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	133FSD261								

授業計画								
------	--	--	--	--	--	--	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	この演習の進め方について説明する。 服づくりの基礎について解説する。
第2回	服づくりの基礎（実習）	アイロンの使い方、縫い方の基礎を学ぶ。 手工芸への関心を高める。
第3回	服の構造（スカート）	スカートの構造を学ぶ。 服飾小物について学ぶ。
第4回	服の構造（パンツ）	パンツの構造を学ぶ。 スカートやパンツなどの商品知識を身につける。
第5回	服の構造（シャツ、ブラウス）	シャツやブラウスの構造を学ぶ。 シャツとジャケットの商品知識を身につける。
第6回	服の構造（ジャケット）	ジャケットの構造を学ぶ。 服のディテールについて商品知識を身につける。
第7回	衣装の現存資料の見学	京都服飾文化研究財団で、衣装の展示と修復作業を見学する。
第8回	前半の総括 / ファッションマーケティング導入	前半の総括を行う。着物について学ぶ。
第9回	リサーチ練習（コラージュなど）	消費者がファッションブランドに抱くイメージを探ったり、ホンネを引き出すいくつかの手法を学ぶ。
第10回	リサーチ練習（ミステリーショッピングなど）	店舗やウェブサイトを観察し、その印象や利用者を調べることで、ブランドのコンセプトを理解する。
第11回	リサーチ（自主企画）	特定のファッションブランド・ファッションアイテムの強みや弱みを探るリサーチを自主企画し、実施する。
第12回	リサーチ（自主企画）	同上
第13回	リサーチ（自主企画）	同上
第14回	リサーチ（自主企画）	同上
第15回	プレゼンテーション	自主企画したリサーチの結果について、発表する。

担当者から一言								
前半については、裁縫道具のセットを持っている学生には自費してもらいます。また、内容に応じて服装などについても指示をします。								

講義名	近代デザイン史							担当教員	面矢 慎介
講義コード	1400570	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233LVD202								

授業概要

近代になって、産業革命、市民社会の成立、科学技術の発展などによって、社会は大きく変化した。なかでも、合理主義・機能主義により、われわれの生活空間は、徐々にモダニズムのデザインにおおわれてきた。そして現代、豊かさ、情報化、都市化、グローバル化によって、我々の生活や意識（価値観、美意識、家族観）も変りつつある。このようななかで、近代はじめより現代にいたるまでの間の生活デザイン、主として、道具、インテリア、印刷物などのデザインにおいて、どのような変革の試みがなされてきたのかを、具体例を通して概観する。

到達目標

- (1) モダンデザインの流れの全体像をつかむ。
- (2) 種々のデザイン運動グループの位置付けと特徴を知る。
- (3) 有名デザイナーの名とその作品に親しむ。
- (4) デザイナーの作品の特徴や他との影響関係を調べ、文章にまとめることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	期末筆記試験
レポート課題	55	宿題
上記以外	15	レスポンスペーパー

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。

授業外学習

期間中の宿題として、モダンデザインで活躍したデザイナーで、自分の気に入った人物の評伝と作品について、手描きスケッチ入りでレポートする。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	デザインの20世紀	柏木 博	NHKブックス	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	近代デザイン史							担当教員	面矢 慎介
講義コード	1400570	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233LVD202								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	はじめに	近代の始まり、産業革命
第2回	プレモダンデザイン	モリスとアーツアンドクラフツ運動
第3回	プレモダンデザイン	アールヌーボーとグラスゴー派
第4回	プレモダンデザイン	ウィーン工房
第5回	プレモダンデザイン	ドイツ工作連盟
第6回	モダンデザイン	マシーンエイジ、フォーディズム、未来派
第7回	モダンデザイン	ロシア構成主義
第8回	モダンデザイン	デ・ステイル
第9回	モダンデザイン	バウハウス
第10回	モダンデザイン	インダストリアルデザイン
第11回	モダンデザイン	アールデコ
第12回	モダンデザイン	MOMAとミッドセンチュリー、ウルム造形大学
第13回	モダンデザイン	スカンジナビア・モダン
第14回	モダンデザイン	イタリアン・モダン
第15回	ポストモダンデザイン	ポストモダンデザイン

担当者から一言

講義名	空間デザイン論							担当教員	佐々木 一泰
講義コード	1400580	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333RED223								

授業概要

われわれは日常デザインの最終的な成果を目にするが、その背景や仕組みを理解する機会は少ない。そこでこの講義では、近現代の西洋・日本の建築や商業空間のデザイン・デザイナーを通じて、デザインの背景とその制作過程から、空間デザインを成り立たせる手法を分析する。それら空間デザインは建築単体で成り立っている訳ではない。そこでは、グラフィックや工芸など、さまざまな視覚表現や考えが統合され影響しあうことで成り立っているといえる。それらを理解する事で、自身の設計やデザインに応用展開する事を目指す。

到達目標

- (1) 近現代の日本・ヨーロッパのデザイン背景を理解する。
- (2) デザインの構成理論や技術について理解する。
- (3) 自身の設計やデザインに応用展開する事を目指す。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	100	全15回の授業内全てに小レポートを課し、その内容で評価する。
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書の指定された部分を授業までに読解し、背景を理解したうえで授業に臨むこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	作家たちのモダニズム	黒田智子 他	学芸出版社	4-7615-2307-7
2	近代日本の作家たち 建築をめぐる空間表現	黒田智子 他	学芸出版社	4761523794
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中プリント配布

前提学力等

履修資格

講義名	空間デザイン論							担当教員	佐々木 一泰
講義コード	1400580	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333RED223								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、講義概要の説明	空間デザインの記録と記憶 スケッチ・ドロ잉の表現、計測の手法
第2回	日本の空間- 1	日本デザインのアイデンティティ
第3回	日本の空間- 2	西洋からの影響
第4回	日本の空間- 3	日本的表現とは何か
第5回	日本の空間- 4	個人としての様式
第6回	日本の空間- 5	インテリア、家具、周辺への展開
第7回	西洋の空間- 1	インターナショナルスタイルに向けて
第8回	西洋の空間- 2	オランダ建築概論
第9回	西洋の空間- 3	様式からの分離、新たなデザイン
第10回	西洋の空間- 4	分野を横断するデザイン
第11回	西洋の空間- 5	個人としての様式
第12回	空間への展開- 1	構図の視覚的表現
第13回	空間への展開- 2	平面計画のしくみ
第14回	空間への展開- 3	空間の視覚的効果
第15回	空間への展開- 4	現代の空間デザインへの応用

担当者から一言

講義名	建築計画論							担当教員	藤木 庸介
講義コード	1400705	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233RED223								

授業概要

世界には建築に対する多様な考え方や表現があり、これらを概観する事は、建築を理論的、且つ、感覚的に理解する上での必須要件と言えよう。本講義では建築に対する議論や設計を巡る思考の助けとなる様な基礎知識、あるいは最低限知っておくべき論理的フレームを“Architectural Design”という言葉の上に広く捉えつつ、これらの知見をわかりやすく解説する。

到達目標

- (1) 建築に対する議論や設計を巡る思考の助けとなる様な基礎知識を習得する。
- (2) 建築計画に関する、最低限知っておくべき論理的フレームを“Architectural Design”という言葉の上において理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に記載した(1)(2)の内容を包含した小テスト3回により評価。成績への寄与率は小テストの合計を100%とし、60%以上を合格とする。

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書の講義対象部分を事前・事後において通読することが望ましい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	テキスト建築意匠	平尾和洋・末包伸吾・他	学芸出版社	ISBN4-7615-3146-0
2				
3				

第2回目授業までに教科書を用意すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考現学概論							担当教員	面矢 慎介
講義コード	1400730	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD109-C								

授業概要

生活を捉える基本的な方法論としての考現学について解説する。日本において創始された考現学は、生活のありようをとらえる有効な方法であるばかりか、生活実態に即したデザインの発想をうながし、現在まで多くの生活研究者・デザイン実務家によって発展・継承されている。考古学者が発掘した遺構・遺物から過去の生活相を復元し想定するように、考現学では、現在の生活を観測、観察、記録して、その生活相の変化を明らかにし、新しい生活をデザインするための立脚点とする。本講義では、考現学の創始者・今和次郎（1888～1973）から現在にいたる考現学的生活研究の系譜を論じ、さまざまな考現学的調査手法を事例を交えて解説する。グループワークによる調査体験、授業期間終了後の個人調査・レポート制作を含む。

到達目標

実際の調査体験を通して、生活文化をとらえるための考現学的観察・記録の方法と視点を修得する。（１）過去の考現学調査の方法と視点を理解し、自分なりの感想や意見を述べる事ができる。（２）グループワークに参加し協調して調査を計画・実行できる。（３）個人で調査を計画・実行し、その結果を文章や図解にまとめることができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	70	個人調査レポート（期末レポート）
上記以外	30	コメントカード（寄与率10%）、グループワークでの貢献度（寄与率20%）

個人調査レポートは授業期間終了後、夏期休暇中に作成する。グループワークへの参加はそれまでの講義時間数の半分以上を出席した者に限る。

授業外学習

夏期休暇中の個人調査レポート（必須）

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	考現学入門	今和次郎	ちくま文庫	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリント配布する

前提学力等

履修資格

講義名	考現学概論							担当教員	面矢 慎介
講義コード	1400730	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD109-C								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	考現学とはなにか	基本的定義・方法的特性
第2回	今和次郎とその考現学	今和次郎の考現学とその時代背景
第3回	今和次郎グループの考現学手法	観察、スケッチ、計測、集計、図化
第4回	考現学の現代的継承 1	生活財生態学、民具悉皆調査
第5回	考現学の現代的継承 2	とげぬき地蔵の考現学
第6回	考現学の現代的継承 3	街歩き、路上観察
第7回	現学の現代的継承 4	自動販売機の生態、自転車駐車場の生態
第8回	グループワーク 1	調査テーマの探索
第9回	グループワーク 2	調査テーマ決定、仮調査
第10回	グループワーク 3	調査方法詳細の決定
第11回	グループワーク 4	調査経過会議
第12回	グループワーク 5	調査経過会議
第13回	グループワーク 6	調査結果の集計・分析
第14回	グループワーク 7	成果報告準備
第15回	グループワーク 8	成果報告会、個人調査課題の出題

担当者から一言

講義名	構造計画（生活デザイン）							担当教員	渡邊 須美樹
講義コード	1400820	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233RED224								

授業概要

建物を計画するということは、機能性、安全性を把握しさらに芸術性を盛り込む総合的な作業である。建物を成立させるためには、建物に作用する力の種類と流れを掌握し、構造材料の特性を活かして架構することが必要である。本講義では建物に作用する外力に対して使用する構造材料の特性を活かし効率の良い構造計画を習得することと、小規模木造建物の計画について講義する。

到達目標

建物に作用する力の種類と流れをに対し、建物の安全性を確保するための基本的な架構計画を習得し、小規模木造建物を設計する能力を身に着けること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	記述試験を行なう。
レポート課題	0	
上記以外	30	毎回復習小テストを行なう。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	図解 やさしい建築一般構造	今村仁美、田中美都	学芸出版者	978-4-7615-2477-7
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

物理の基礎知識を有していること

履修資格

講義名	構造力学 (生活デザイン)							担当教員	渡邊 須美樹
講義コード	1400830	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC202, 214BRM289, 333RED321								

授業概要

建築空間を構成するためには、建物に作用する力の種類と流れ、および建物を構成する部材に作用する力とそれに対する架構の挙動を理解することが不可欠である。本講義では、基礎的な構造力学を学習する。

到達目標

静定構造物を対象とした建築構造力学の基礎知識を習得し、簡単な骨組構造を対象として力学の基礎原理を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	記述試験を行なう。
レポート課題		
上記以外	30	毎回復習小テストを行なう。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	図解 やさしい構造力学	浅野清昭	学芸出版社	978-4-7615-2349-7
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

数学の基礎知識を有していること

履修資格

講義名	サステナブルデザイン論							担当教員	南 政宏
講義コード	1400910	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD108								

授業概要

大量消費、大量生産によって経済発展を遂げ、支えられてきた二十世紀。現在、その豊かさの代償に様々な弊害や歪みが起きている。様々な仕組みを見直す時がきている。デザインの力がどのように社会に貢献できるのか考察する。デザインとは何か。デザインの基礎的な話から、現在世の中で変わりつつあるデザインの役割、持続可能な社会にサステナブルなものづくり、社会システムのあり方を先端事例を交えて考える。

到達目標

デザイナーの職能と、デザインの役割、デザインの可能性について様々な見地からの知識を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	テーマに沿って、オリジナリティのある視点で書けているか。
上記以外	70	毎回のレスポンスペーパー

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

事前に毎週の講義テーマに関する事前情報を収集しておく。
必要に応じて小レポートを課する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書はなし。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	世界を変えるデザイン	シンシア・スミス	英治出版	4-86276-058-9
2	Balance in design 美しくみせるデザインの原則	Kimberly Elam	ビー・エヌ・エヌ新社;	4861007933
3				

前提学力等

生活デザイン学科1年次での履修が望ましい。

履修資格

講義名	サステナブルデザイン論							担当教員	南 政宏
講義コード	1400910	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD108								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	デザインに込められた意味や形の考え方。シンボルマークを事例に解説。
第2回	自然が生み出したデザイン	バイオミミクリーを事例に、自然から応用されたデザインについて。
第3回	広告やグラフィックにおけるデザイン	広告やグラフィックにおけるデザインについて、事例を通して学ぶ。
第4回	電気やエネルギーとデザイン	日本と世界を比較し電気やエネルギーとデザインについて。
第5回	ブランディングデザイン	ブランドとは何か事例を通して、様々なブランディングについて。
第6回	クラフトとデザイン	クラフトと手工業とデザインについて。
第7回	リサイクルとデザイン	ゴミとリサイクルとデザインの関係について。
第8回	アフォーダンスとデザイン	行為を誘発するデザインについて。
第9回	地域デザイン	地域を舞台に活躍するデザイナーについて。
第10回	ロングライフデザイン	何年も前からずっと変わらないロングライフなデザインについて。
第11回	建築におけるサステナブルデザイン	持続可能な建築とは何か？現代の住宅などについて。
第12回	乗物におけるサステナブルデザイン	持続可能な乗り物や自転車などのデザインについて。
第13回	世界を変えるデザイン	今、世界でデザインの果たす役割について。
第14回	途上国とデザインについて	フェアトレード、マイクロクレジットなど途上国とデザインについて。
第15回	まとめ、大学時代にすべきこと	大学時代に何をすべきかについて。

担当者から一言

生活デザイン学科1年生に向けた内容となっている。生活造形基礎演習での補足的な内容も含まれる。

講義名	色彩学							担当教員	宮本 雅子
講義コード	1400930	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233LVD204								

授業概要

現代は生活の質が求められる時代となり、生活のさまざまな場面で色彩の果たす役割は大きくなっている。しかし、騒色という言葉があるように色彩が人に悪影響を及ぼすこともある。そこで、生活デザインにおける快適な色彩計画のための基礎知識を得ることをねらいとし、色の表示方法や色彩調和論等について講義する。

到達目標

- (1) 色彩の表示方法について習得する。
- (2) 配色技法について理解し、生活の中での配色事例について分析できる
- (3) 生活の中の色彩について基本的な知識を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標の(1)色知覚について理解し、色彩の表示方法について習得する、については、課題5%、小テスト15%、期末試験10% レスポンスペーパー5%、(2)色彩調和、配色技法について理解し、生活の中での配色事例について分析できる、については、課題10%、小テスト15% 期末試験10% レスポンスペーパー5%、(3)生活の中の色彩についての

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	色彩：カラーコーディネーター入門		日本色研事業	978-4-901355-27-8
2				
3				

副教材として「新配色カード199a」を使用

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	色彩学演習							担当教員	宮本 雅子
講義コード	1400940	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233LVD205								

授業概要

色彩感情や調和理論についての認識を深めるためにポスターカラーやパーソナルコンピュータによる画像処理を利用した色彩表現を行う。また、すべての色はシステム化された記号や数字で示し、各種色度図上に表現できることを理解するため機器類を使用して測色を行う。さらに、色彩による視認性の程度や視覚障害者への配慮事項についても理解する。

到達目標

- (1) 色料の3原色の混色による色彩表現ができる。
- (2) 色彩の測定方法を理解する
- (3) 実際のモノ、空間の配色について調査し、評価できる。
- (4) 問題のある配色について、コンセプトに基づいた好ましい配色の提案ができる。
- (5) 感覚だけではなく理論に基づいた色彩計画ができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標の(1)色料の3原色の混色による色彩表現ができる、については、課題作品15%、(2)色彩の測定方法を理解する、については、課題作品10%、(3)実際のモノ、空間の配色について調査し、評価できる、については、プレゼンテーション10%、レポート10%、(4)問題のある配色について、コンセプトに基づいた好ましい配色の提案ができる、

課題の提出期限は厳守
授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

「配色カード199a」を色彩調査に使用する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

「デジタル色彩マニュアル」「建築の色彩設計法」等、演習の中で適宜紹介

前提学力等

色彩の表示方法や配色技法について理解していること

履修資格

講義名	色彩学演習							担当教員	宮本 雅子
講義コード	1400940	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233LVD205								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	色料の3原色による混色	色料の3原色(C.M.Y)、白および黒相互間の混色により色票を作成する
第2回	グラデーションを利用したデザイン	コンセプトを設定し、作成した色票のグラデーションを使用してデザイン化する
第3回	測色1	3種類の測色方法をローテーションで行う 測色1 標準色票による測色(Hv/c)
第4回	測色2	測色2 色彩色差計による物体色の測定(XYZ値、Yxy値、L*a*b*値、Hv/c値)、色差の算出
第5回	測色3	測色3 色彩輝度計による光源の色の違いによる色の見え方の測定(XYZ値)、色度の算出
第6回	色彩調査の説明	街並み、道具、服飾の色彩の調査(好ましい配色と好ましくない配色)について説明する
第7回	中間発表	どのような調査の視点で調査をしているのかについて説明
第8回	プレゼンテーション	調査結果のプレゼンテーションと講評を行う
第9回	カラーシミュレーションの手順について	フォトショップを利用したカラーシミュレーションの手順について説明する
第10回	学外実習	伝統的町並の屋外広告物の色彩調査を行う
第11回	カラーシミュレーション	好ましくないと評価した配色に対しての改善案をフォトショップを利用して作成する
第12回	プレゼンテーション	プレゼンテーションと講評を行う
第13回	Webサイトのカラーデザイン	不特定多数の人にイメージを伝える方法の一つとしてWebサイトのカラーデザインを行う
第14回	プレゼンテーション	プレゼンテーションと講評を行う
第15回	卒業研究発表会への参加	卒業研究発表会に参加し、様々なデザインに触れる機会とする
担当者から一言		

講義名	社会調査方法論							担当教員	大野 光明
講義コード	1401130	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C204, 233MKD281, 235S0C203								

授業概要

本講義では、社会調査の企画・設計から資料・データの収集と整理までの具体的な過程と方法を学び、自分で調査できるだけの具体的な調査技術を身につけることを目的とする。量的調査については、質問紙調査の方法を修得することに重点を置き、具体的には、調査の企画・設計、仮説構成、調査方法の選定（全数調査と標本調査）、標本抽出（無作為抽出、標本数・標本誤差の理解）、質問文・質問紙の作成、調査の実施（質問紙の配布・回収の方法）、収集されたデータの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング）について学ぶ。質的調査については、インタビュー調査の方法を学び、面接調査の実際とフィールドノートの作成方法を修得する。講義の中では、質問紙の作成等においてグループ学習を取り入れることを考えている。

到達目標

- (1) 調査目的・方法・手順および調査問題の選択と定式化について理解することができる。
- (2) 社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく具体的な方法が理解できる。
- (3) 質問紙の作成についての技術と能力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標(1)、(2)、(3)について、最終試験を実施して評価する。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標(1)と(2)について、授業中に数回の小課題を出して評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書はその都度紹介する。授業中にプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	社会調査方法論							担当教員	大野 光明
講義コード	1401130	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230SOC204, 233MKD281, 235SOC203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンスとイントロダクション	授業の進め方について説明する。
第2回	調査の目的と方法	特に量的調査をおこなう場合の目的と調査方法の決め方について概説する。
第3回	調査の企画	調査の企画に際して考えるべきことを概説する。
第4回	調査の設計と仮説の構成	調査テーマの決定と仮説の構成について概説する。
第5回	全数調査と標本調査	対象者全体に実施する調査と一部を対象に実施する調査の違いと方法について概説する。
第6回	無作為抽出	無作為抽出の原理と方法について概説する。
第7回	標本数と標本誤差	調査に必要な標本数と誤差について概説する。
第8回	サンプリングの方法	標本抽出の諸方法と実際について概説する。
第9回	質問文の作成	質問項目、質問文(ワーディング)の作成方法を概説し、実際にグループで作成する。
第10回	質問紙の作成	質問紙の作成方法を概説し、実際にグループで作成する。
第11回	質問紙調査の実施方法	質問紙調査の諸方法と実際について概説する。
第12回	調査データの整理(1)	エディティング、コーディング、データクリーニング等について概説する。
第13回	面接調査の方法	インタビュー調査の方法と実際について概説する。
第14回	調査データの整理(2)	フィールドノートの作成方法について概説する。
第15回	まとめ	授業全体のまとめをおこなう。
担当者から一言		
社会調査士資格認定科目(B科目)。		

講義名	社会調査論							担当教員	中井 治郎
講義コード	1401140	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130SOC103, 133LVD107, 135SOC202								

授業概要

社会調査とは、社会事象を人間の社会的・生活連関における意味に即して調査することをいう。本講義では、現代社会において社会的現実を知る有力な手段である社会調査の概要、歴史、種類、問題点など、基本的事項を概説するとともに、その意義について考える。

到達目標

- (1) 社会調査の分類や倫理に関する基本的事項が理解できる。
- (2) 社会調査の歴史や手法に関する知識と理解力を身につけることができる。
- (3) 国勢調査の特徴と課題について自らの考えを述べるができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標(3)については、論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標(1)(2)については、5回程度授業中に小レポートを実施する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。ただし、正当な理由があると認められる場合は考慮するので、事前または事後にその旨申し出ること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書はその都度紹介する。授業中にプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	住環境設計演習							担当教員	佐々木 一泰 / 藤木 庸介
講義コード	1401210	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233RED225								

授業概要

初歩的な設計演習の第一歩として、構造を意識した木造住宅の設計を学ぶ。
 第1課題では日本の戦後住宅の作品分析と、それをもとにした住宅の設計を行う。特に日本において中心的な構法である木造建築の知識と理解を深め、木造住宅の設計手法を高める。課題である住宅作品を理解したうえで、家族構成やテーマを新たに与え、条件にあった住空間を設計し、新たに増築する。
 第2課題は、ショート課題として小規模な住宅の設計と、そのプレゼンテーションの作成を行う。

到達目標

- (1) それぞれの構造の特徴を理解した住空間の設計が出来る。
- (2) 平面図、断面図、立面図を作成することができる。
- (3) 模型による素材や形、空間の表現ができる。
- (4) 構想・設計・プレゼンテーションスキルをトータルに身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	出題課題による評価

授業外学習

課題にあたっての事前調査、エスキースチェック前に各自予め事前作業を行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	実務初心者からの木造住宅設計図・詳細図の描き方	是永 美樹 他	彰国社	978-4395320059
2	コンパクト建築設計資料集「住居」	日本建築学会	丸善	978-4621076880
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

基礎設計製図を履修していること

履修資格

講義名	住環境設計演習							担当教員	宮本 雅子 / 藤木 庸介
講義コード	1401220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233RED321								

授業概要

インテリア空間、並びに、地域や環境を考慮した住空間の設計課題を行う。
必要に応じて、設計の方法、製図の方法、模型制作の方法などを学習する。
随時、具体的な実例を参照し、設計に資する。

到達目標

- (1) 各自で設定したコンセプトに基づいた住空間の設計ができる。
- (2) 空間の各寸法に対する意味を理解する。
- (3) 平面図、展開図、透視図を作成することができる。
- (4) 模型による素材や形の表現ができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	課題の成果として提出される図面・模型等およびプレゼンテーションによって評価する(課題 : 50% , 課題 : 50%)。 到達目標の(1)については20%、(2)については20%、(3)については30%、(4)については20%で評価する。

単位取得には、すべての課題を提出することが前提条件となる。
授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初歩からの建築製図	藤木庸介・柳沢究(編著)	学芸出版社	ISBN978-4-7615-2587-3
2				
3				

参考書は授業内に適宜紹介する他、必要に応じてプリントを配布する

前提学力等

基礎設計製図、住環境設計演習 を履修していること

履修資格

講義名	住環境設計演習							担当教員	宮本 雅子 / 藤木 庸介
講義コード	1401220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233RED321								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	課題 : 集合住宅のリフォーム	課題説明、ベース図面の作図
第2回	課題 : 集合住宅のリフォーム	展開図のトレース、エスキースチェック・ワークショップ
第3回	課題 : 集合住宅のリフォーム	コンセプトの提出、エスキースチェック・ワークショップ
第4回	課題 : 集合住宅のリフォーム	透視図のトレース、図面制作
第5回	課題 : 集合住宅のリフォーム	模型制作説明、図面・模型制作
第6回	課題 : 集合住宅のリフォーム	図面の提出・模型制作
第7回	課題 : 集合住宅のリフォーム	模型制作
第8回	課題 : 集合住宅のリフォーム	課題 講評会・課題 出題
第9回	課題 空間 : 地域や環境を考慮した住	地域の調査・ワークショップ
第10回	課題 空間 : 地域や環境を考慮した住	エスキースチェック・ワークショップ
第11回	課題 空間 : 地域や環境を考慮した住	エスキースチェック・ワークショップ
第12回	課題 空間 : 地域や環境を考慮した住	プレゼンテーション制作 ・チェック
第13回	課題 空間 : 地域や環境を考慮した住	プレゼンテーション制作 ・チェック
第14回	課題 空間 : 地域や環境を考慮した住	プレゼンテーション制作 ・チェック
第15回	課題 空間 : 地域や環境を考慮した住	課題 講評会

担当者から一言

講義名	住環境設計演習							担当教員	佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 山下 麻子
講義コード	1401230	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	333RED322								

授業概要

住空間においてより広い視野を養う。第1課題では住居空間と公共性をもつ非住居空間を併用した建築物を計画する。それぞれの空間の特性を理解し、それぞれの設計条件を考慮した空間を考える。第2課題では、より社会性をもつ住空間として、社会性を反映した空間の設計を行う。地域や様々な家族構成、利用者のスケールを観察・理解し、周囲の外構空間や共用空間、個別空間に反映させる。

第1課題では、フィールドサーベイ・住宅設計・店舗設計・ビジュアルコミュニケーションデザインを、第2課題では、上記に加え社会性のある課題をテーマに据え、さらに実務的な設計手法を学ぶ。それぞれの課題では、構想・設計・プレゼンテーションスキルをトータルに身につけることを目指す。

近年、資格関連の受験科目も住宅のみの出題に留まらず、店舗や施設の併用住宅の出題が多い。また、住宅メーカーも住宅から非住宅の建設や設計に幅を拡げつつある。この演習では、より社会的な視点で住空間を中心としながら、それぞれの空間を構想し、より広い視点で地域や社会の中の住環境を構想する。

到達目標

- (1)それぞれの構造の特徴を理解した住空間の設計が出来る。
- (2)周辺環境を理解した住空間の提案が出来る。
- (3)平面図、断面図、立面図を作成することができる。
- (4)模型による素材や形、空間の表現ができる。
- (5)構想・設計・プレゼンテーションスキルをトータルに身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	提出課題による評価

授業外学習

課題にあたっての事前調査、エスキースチェック前に各自予め事前作業を行う。また適宜、小課題を出題し、授業時間内に完成させる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北 健雄 他	彰国社	978-4395241217
2	コンパクト建築設計資料集成「住居」	日本建築学会	丸善	978-4621076880
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

基礎設計製図、住環境設計演習を履修していること。

履修資格

講義名	住環境論							担当教員	宮本 雅子
講義コード	1401250	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333RED221								

授業概要

超高齢社会に突入した今日、建築の分野では高齢者・障害者にとって好ましい住環境について理解することは避けて通れない。そこで、まず高齢社会における住宅の考え方を理解し、高齢者・障害者に対応した住まいの条件について知る。また、住環境の中でも室内の物理的環境である熱、空気、光を取り上げ、人間と物理量との関係から快適な居住環境をつくりだすための条件を導き出すとともに、自然環境を積極的に利用した室内の環境づくりについて講義する。

到達目標

- (1)空間デザインの中に活かせる知識を得る。
- (2)環境条件の評価ができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標の(1)空間デザインの中に活かせる知識を得る、については、期末試験40%、レスポンスペーパー20%、(2)環境条件の評価ができるについては、小テスト30%、レポート10%で評価する。

レポート1回、小テスト2回、宿題を課すことがある。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

「コンパクト建築設計資料集バリアフリー」「シックハウスを防ぐ最新知識」等、講義の中で適宜紹介。

前提学力等

履修資格

講義名	住環境論							担当教員	宮本 雅子
講義コード	1401250	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333RED221								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	高齢社会における住宅 1	高齢者・障害者と住環境
第2回	高齢社会における住宅 2	高齢社会における住宅の考え方
第3回	高齢社会における住宅 3	高齢者・障害者に対応した住まい
第4回	温熱環境 1	温熱要素と快適条件
第5回	温熱環境 2	建築材料と熱の伝わり方
第6回	温熱環境 3	湿気と結露
第7回	空気環境	小テスト、シックハウス症候群とその対策
第8回	光環境 1	測光量とその単位、人間の視覚特性
第9回	光環境 2	快適な光環境のための要件
第10回	光環境 3	人工照明を利用した照明計画
第11回	光環境 4	昼光を利用した照明計画
第12回	環境共生住宅 1	小テスト、環境共生住宅の計画手法
第13回	環境共生住宅 2	建物への日照利用とその効果
第14回	環境共生住宅 3	パッシブクーリングの手法とその効果
第15回	まとめ	全体まとめ

担当者から一言

講義名	消費科学							担当教員	松永 伸洋 / 安部 正毅 / 小林 重信 / 永野 暁 / 藤本 昌則
講義コード	1401350	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233FSD262								

授業概要

繊維に関する基礎知識（繊維、糸、布地、染色加工）および衣料品の企画・設計・製造・苦情事例と解析に関する基本事項を習得する。

到達目標

- (1) 繊維製品の企画および使用に係る問題を考察するための基礎的能力を養う。
(2) 望ましくは、繊維製品品質管理士（TES）の資格試験における当該科目の問題に対応できる程度の能力を身につけること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	定期試験および下記講義後の小テストの合計点（最終評価点）が、満点の60%以上の得点を合格点とする。
レポート課題		レポート課題の得点を定期試験の一部に組み込むこともある。
上記以外	40%	各講義の後で小テストを行う。（1～2時限に1回程度）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは各講師が作成し、講義前に配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	繊維製品の基礎知識シリーズ 第1,2,3部	日本衣料管理協会刊行委員会編	日本衣料管理協会	
2	繊維製品の品質苦情が1'	日本衣料管理協会刊行委員会編	日本衣料管理協会	
3	繊維製品の苦情処理技術が1'	日本衣料管理協会刊行委員会編	日本衣料管理協会	

繊維製品品質管理士試験問題集（平成24 - 28年度）

前提学力等

履修資格

講義名	消費科学							担当教員	松永 伸洋 / 金田 哲郎 / 永野 暁 / 藤本 昌則
講義コード	1401360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333FSD361								

授業概要

消費科学 に引き続き、繊維製品の品質管理、要求品質とその評価方法ならびに消費者行動、消費者問題、家庭用繊維製品の流通・消費過程、消費者苦情・環境問題について学習する。さらに消費者苦情事例から苦情原因の究明、改善・再発防止対策を考え、また繊維産業・繊維製品に関する時宜を得た話題について、論文の実践的な書き方を学習する。

到達目標

繊維製品、主として衣料品の品質管理の実施、要求品質・性能の内容ならびに流通・消費者問題について理解できるようにする。繊維製品品質管理士(T E S)の資格試験を受験できるレベルに到達するように学習する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	定期試験と小テスト(「上記以外」参照)の得点を6:4の割合で総合評価し、60点以上を合格とする。
レポート課題		事例問題、論文については小テストに代えてレポート提出で評価するが、得点は小テストに繰り入れる。
上記以外	40%	原則として、各講義の後に小テストを行う。事例研究や論文については、小テストに代えてレポート提出で評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講師が作成したテキストを使用する。テキストは初回の授業で配布する。その他必要に応じてプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	繊維製品の基礎知識	日本衣料管理協会	日本衣料管理協会	
2	繊維製品の品質苦情ガイド	日本衣料管理協会	日本衣料管理協会	
3	繊維製品の苦情処理技術ガイド	日本衣料管理協会	日本衣料管理協会	

必要に応じてプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	消費科学							担当教員	松永 伸洋 / 藤本 昌則 / 金田 哲郎 / 永野 暁 /
講義コード	1401360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333FSD361								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	品質管理と品質保証	品質管理とは。
第2回	品質管理と品質保証	品質管理の手法
第3回	衣料品などの消費性能と試験方法	耐久性（初期性能の持続性） 丈夫さ、寸法安定性（収縮、伸び、変形）、変退色、布表面の変化（しわ、ピリングなど）
第4回	衣料品などの消費性能と試験方法	取扱い利便性 洗濯、アイロンがけ、保管
第5回	衣料品などの消費性能と試験方法	快適性（着心地のよさ） 肌触り・風合い、被服圧
第6回	衣料品などの消費性能と試験方法	特殊性能 難燃性、撥水撥油性、紫外線カット性、耐薬品性、制電性、抗菌・防臭性など
第7回	消費者行動とその調査方法	消費者はどのような動機で買い物をするか 商品の分類
第8回	消費者問題と消費者行政	不当景品類および不当表示防止法 家庭用品品質表示法
第9回	経済変化と衣料の流通・消費	繊維産業（製造・流通）の実態 販売業種、販売業態など
第10回	衣料品の消費と消費者苦情	衣料品の消費と損耗過程 家庭洗濯、商業クリーニングの実態と苦情
第11回	衣料品の消費としょひ者苦情	消費者苦情の実態と発生要因 品質表示（取扱い絵表示）とサイズ表示
第12回	衣料品の環境問題	廃棄物処理とリサイクルの推進 環境問題に対する製造、加工技術の取り組み
第13回	損傷・形態変化などに関する苦情事例	衣料の破れ、収縮、伸び、しわ、ピリングなどの苦情事例につて、原因の究明と再発予防対策を学習する。
第14回	繊維産業、繊維製品に関する論文の書き方	時宜を得た問題を提示して、簡潔で要旨一貫した論文の書き方を学習する。
第15回	事例問題・論文の添削、解説	全体結果の講評
担当者から一言		

講義名	消費者行動論							担当教員	山田 歩
講義コード	1401370	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333MKD281								

授業概要

本講義では、行動経済学と行動デザインの視点から、生活者・消費者を動かすメカニズムについて考えます。「人を動かす」もしくは「人が動く」仕組みと仕掛けを分析し、リアルな社会の中での人びとの振舞いを理解し、またそれを方向づける方法について検討を加えていきます。授業のなかではコンペティションに応募するアイデアを企画するといった作業も含まれます。

到達目標

1. 消費者行動論の基本的な考え方を理解する。
2. それらの知識をもちいて、現実の消費現象、企業のマーケティング活動を理解・分析できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	1) 販促会議企画コンペティションへの取り組み 2) 選択アーキテクチャに関する分析と発表
上記以外		

レポートを提出しなかった者、最終プレゼンテーションを行わなかった者は評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	消費者行動論							担当教員	山田 歩
講義コード	1401370	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333MKD281								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	コミュニケーション・デザイン	コミュニケーション・デザインとは
第2回	コミュニケーション・デザイン	「販促会議企画コンペティション」からコミュニケーション・デザインを考える
第3回	コミュニケーション・デザイン	「販促会議販促会議企画コンペティション」の企画
第4回	コミュニケーション・デザイン	「販促会議販促会議企画コンペティション」の企画（発表）
第5回	コミュニケーション・デザイン	「販促会議販促会議企画コンペティション」の企画（発表）
第6回	コミュニケーション・デザイン	「販促会議販促会議企画コンペティション」の企画（発表）
第7回	選択アーキテクチャの設計	選択行動の仕組みとデザイン
第8回	選択アーキテクチャの設計	選択行動の仕組みとデザイン
第9回	選択アーキテクチャの設計	選択行動の仕組みとデザイン
第10回	選択アーキテクチャの設計	選択行動の仕組みとデザイン
第11回	選択アーキテクチャの設計	選択行動の仕組みとデザイン（発表）
第12回	選択アーキテクチャの設計	選択行動の仕組みとデザイン（発表）
第13回	説得的コミュニケーション	対人コミュニケーションと消費者行動
第14回	説得的コミュニケーション	対人コミュニケーションと消費者行動
第15回	説得的コミュニケーション	対人コミュニケーションと消費者行動
担当者から一言		

講義名	消費生活論						担当教員	小牧 美江	
講義コード	1401380	単位数	2	開講期	後期	授業種別			講義
ナンバリング番号	133MKD182, 134NUT214, 135LAH207								

授業概要

私たちは、生活に必要な商品(物・サービス)を購入し、消費することで生活を営んでいる「消費者」である。消費生活論は、私たちの生活のあらゆる場面で消費者が行う消費の側面から分析し、その成果をもとに、より良い消費行動を通じて経済活動を活性化し、消費者被害・消費者問題の発生を防止、消費者被害救済のシステムを改善するなど、私たちの生活の改善や社会の改善につなげていく学問である。

本講義では、消費生活を分析する視点として、「法」と「人権」に着目する。「消費」を「契約」(法律行為)という法の視点から分析し直し、そこに登場する「消費者」「事業者」の権利と責任、関係性、消費者トラブルの実情と原因、消費者法・消費者行政が果たす役割、消費者の人権について考えていく。

消費者が、社会問題、倫理、世界情勢、将来世代の状況等、様々な社会状況や課題を考慮して消費行動を選択することで事業者や政府に対して能動的に働きかけを行うことを通じて、消費者自身の権利を守り、公正な事業活動を促進し、その結果として構築される公正で持続可能な社会を「消費者市民社会」という。本講義では、この消費者市民社会の実現をめざす「消費者市民」とはどのような消費者なのかについても、消費者の権利と責任をキーワードとして考え、自らも「消費者市民」としての行動ができるようになることをめざす。また、「消費者市民を育てる消費者教育」のあり方についても考えていく。

講義形式を中心とするが、適宜、グループ討論やプレゼンテーションなどの演習も取り入れる。

到達目標

- (1)消費生活をさまざまな角度から分析するための基礎となる知識と学び、自分の言葉で説明することができるようになる。
- (2)消費者である自分自身の消費生活に関する課題に気づき、その課題解決に必要な情報を収集・分析し、課題を解決しようとする態度を身につけることができる。
- (3)消費者の権利と責任、消費者市民社会について理解し、消費者市民としての行動ができるようになる。
- (4)消費者教育が様々な年齢層・場面等に応じて行われることを学び、自分が消費者教育に関わることができる場面と方法を見つけることができるようになる。
- (5)消費生活をさまざまな側面から分析することを学び、自分が専門に研究を深めたいと考えている分野の学問と消費生活との接点を見つけることができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	50	到達目標(1)(4)(5)については、レポート試験を課す。50点満点とし、課題を理解し説明できているか(25点)、自分の学習成果を盛り込み見解を述べているか(15点)、レポート全体が文章として完成しているか(10点)の3基準で採点する。
上記以外	50	到達目標(2)(3)については、授業中に提示する小レポートの成果(20点満点)と、課題レポートについての課題発表会での発表(プレゼンテーション)の成果と発表方法(30点満点)を採点する。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

授業外においても、消費者庁、国民生活センター、適格消費者団体等のウェブサイトで公開されている消費者被害情報など、消費者に関する情報や報道に注目し、自身の消費者としての日常生活における行動を点検する姿勢を身に付けてほしい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新しい消費者教育 - これからの消費生活を考える	神山久美・中村年春・細川幸一編著 / 日本消費者教育学会関東支部	慶應義塾大学出版会	9784766423075
2	ハンドブック消費者2014	消費者庁	全国官報販売協同組合	9784864580595 (9784864580596)
3				

授業中に配付するレジュメ・資料と共に用いる。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	18歳から考える消費者と法・第2版	坂東俊矢・細川幸一	法律文化社	9784589036124
2	ジェンダーで学ぶ生活経済論・第2版	伊藤純・斎藤悦子	ミネルヴァ書房	9784623073542
3	消費者政策 - 消費生活論・第5版	鈴木深雪	尚学社	9784860310806

この他、授業中に参考図書を通覧紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	消費生活論							担当教員	小牧 美江
講義コード	1401380	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133MKD182, 134NUT214, 135LAH207								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	現代の消費生活(ガイダンス)	講義の全体像と各講義テーマの位置付け、到達目標を示すとともに、消費者問題、消費者運動の歴史と現状を概観し、「消費生活」の研究・分析のための視点を示す。
第2回	消費生活と法 「契約」から「消費」を考える	「消費」という現象を「契約」(法律行為)という法の視点から分析し直す。契約の原則から、消費者・事業者の権利と責任、関係性について考える。
第3回	消費生活と子ども	子ども消費者(幼児、小・中・高校生)の消費文化と消費者トラブルの実情、子どもの権利条約から見た子ども消費者の権利について考える。
第4回	消費生活と高齢者・障がいのある消費者	高齢者・障がいのある消費者の消費者トラブルの実情、成年後見制度について、人権の視点から考える。
第5回	消費生活とジェンダー	ジェンダーバイアスや性差別が存在することで、消費者・事業者の意思決定過程にどのような影響が及ぶかなど、消費生活における諸課題をジェンダーの視点から見直し、考える。
第6回	契約トラブル 消費者法・消費者行政の役割	消費生活における民法及び消費者に関する法律の役割、消費者行政の必要性と役割、消費者政策のあり方について考える。
第7回	意思決定過程と家計管理 - 衣生活・食生活の諸課題	衣生活・食生活の諸課題を例として、消費行動における意思決定過程と家計管理、消費者信用について考える。
第8回	住生活の法律と生活設計	住宅の契約(売買、賃貸借)に関する法律、住生活の諸課題と生活設計について考える。
第9回	消費生活と情報・安全	事業者による広告・表示など、安全に関する情報を含む情報発信のあり方、消費者による消費生活情報の収集の課題、批判的思考について考える。
第10回	消費生活と環境	持続可能な消費と資源・エネルギー・環境保護に関する諸課題、持続可能な開発のための教育(ESD)について考える。
第11回	消費者市民社会と消費者教育	「消費者市民社会」の担い手となる「消費者市民」を育てるための消費者教育について、消費者教育体系イメージマップをもとに考える。
第12回	学校教育と消費者教育	学習指導要領の消費者教育に関する内容を確認し、教科教育(家庭科、社会科、公民科)における消費者教育、金融経済教育の課題について考える。
第13回	「消費者市民」を実践する(課題発表)	「消費生活と安全」に関する課題発表を通じて、「消費者市民」として、主張し、行動する方法を考え、実践する。
第14回	「消費者市民」を実践する(相互評価)	課題発表による情報を、「消費者市民」として、批判的に検討する方法を考え、実践する。
第15回	消費者市民社会の実現のために(総括)	消費生活論の学習内容全体を振り返り、消費者市民社会実現のために、自分は「消費者」として何をすべきか、自分の研究課題の中で何が出来るかについて考える。

担当者から一言

担当者は、司法書士でもあります。法律専門家にとっても、消費生活論は非常に興味深い学問です。その興味深さを皆さんと共有できればと考えています。

講義名	心理学基礎							担当教員	後藤 崇志
講義コード	1401540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD105, 134NUT106, 135PSY201								

授業概要

現代心理学の基本的なテーマについて解説する。人間の行動の仕組みや行動の予測、制御のメカニズム、人間発達の原理や人格形成の理論などのテーマをとりあげる。心理学的なアプローチにより人間を理解しようとするための基礎的な知識や考え方を身に付けることを目的とする。

到達目標

- (1) 人の思考や行動、社会生活などを支える心の仕組みの基礎について理解を深める。
- (2) 人の心の仕組みを明らかにし、社会に活かそうとする科学的なアプローチについて理解を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	授業でとりあげたトピックについての課題認識および心理学の多様な内容と方法への理解によって評価する。
レポート課題	50%	授業中に提出を求める小レポートによって、受講者なりの問題理解と問題設定ができているかを評価する。
上記以外		

授業時に実験や質問紙調査などの心理学的な研究手法の体験学習をとりいれるので、積極的な参加を求める。

授業外学習

参考書や授業中に紹介する資料・ウェブサイト等を読み、授業内容についてより深く理解できるように努めることが望ましい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	はじめて出会う心理学	長谷川寿一他	有斐閣	9784641123458
2	心の科学 理論から現実社会へ [第2版]	兵藤宗吉・緑川 昌 編	ナカニシヤ出版	9784779511431
3	アカデミックナビ 心理学	子安増生 編	勁草書房	9784326251155

各回のテーマごとに、適宜、授業中に参考書を紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	心理学基礎							担当教員	後藤 崇志
講義コード	1401540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD105, 134NUT106, 135PSY201								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	心理学の歴史や、領域・研究手法の多様性について学ぶ。
第2回	日常生活の中の心理学	心理学の概念や理論が、日常生活のどのような現象と関わっているかを概観する。
第3回	感覚と知覚	人が外界からの刺激をどのように受け取っているかを学ぶ。
第4回	学習と行動	生物の行動が経験を通じて変化する仕組みの基礎について学ぶ。
第5回	記憶と認知	記憶に関わる諸現象と、それらの現象を支える心の仕組みについて学ぶ。
第6回	思考とメタ認知	人の思考や判断を支える心の仕組みについて学ぶ。
第7回	感情と意思決定	感情が喚起される仕組みや、意思決定において果たす役割などについて学ぶ。
第8回	自己と動機づけ	自己を制御し、行動を動機づける心の仕組みについて学ぶ。
第9回	共感と社会性	他者との関わりや社会生活を可能にする心の仕組みについて学ぶ。
第10回	知能とパーソナリティ	人の個人差を記述し、理解しようとする心理学の試みについて学ぶ。
第11回	発達と進化	人の心の起源や、環境適応的な特徴を理解しようとする心理学の試みについて学ぶ
第12回	集団と文化	集団・社会生活を行う中で生じる現象を理解しようとする心理学の試みについて学ぶ。
第13回	教育とリーダーシップ	教育や組織運営、経営などの改善に活かそうとする心理学の試みについて学ぶ。
第14回	病理と臨床	心の病理を理解し、治療に役立てようとする心理学の試みについて学ぶ。
第15回	まとめ	講義で扱った様々な概念の関係性について俯瞰しつつ、扱いきれなかった内容の紹介も行う。
担当者から一言		

講義名	生活経営論							担当教員	山田 歩
講義コード	1401560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333MKD282, 234NUT371, 335LAH308								

授業概要

この授業では、私たちを取りまく生活環境を学び、現在そして将来、私たちの生活をよりよくマネジメントする力とそれらを改善する力を身につけることを目標とします。身近な生活課題をとりあげると同時に、ソーシャル・デザインの視点から展開されている様々なコミュニケーション施策をみていくことで、現在と将来の自分の生活を見つめ直し、それらをよりよいものに設計することに役立ててもらいたいと考えます。授業では受講生みずからも課題を発見し、それを解決するアイデアを考えてもらいます。

到達目標

1. 私たちを取りまく生活環境を理解しているか
2. 社会や生活者が抱える課題を発見し、それらを解決する力を身につけているか

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	社会や生活者が抱える課題を発見する力、また、それらを解決する力について評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	アイデアは地球を救う。希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン	ソーシャルデザイン会議実行委員会	宣伝会議	
2	Communication Shift	並河進	羽鳥書店	
3				

前提学力等

履修資格

講義名	生活経営論							担当教員	山田 歩
講義コード	1401560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333MKD282, 234NUT371, 335LAH308								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	講義全体のオリエンを行います。
第2回	環境	地球環境 消費社会
第3回	環境	地球環境 消費社会
第4回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係
第5回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係
第6回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係
第7回	健康	健康 悩み
第8回	健康	健康 悩み
第9回	地域社会	地域や人とのかかわり方 地域の安全・安心対策
第10回	地域社会	地域や人とのかかわり方 地域の安全・安心対策
第11回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する
第12回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する
第13回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する
第14回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する
第15回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する

担当者から一言

--

講義名	生活造形基礎演習							担当教員	南 政宏 / 富原 仁美
講義コード	1401580	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	133LVD202								

授業概要

あらゆるデザイン活動の基礎となる「観察力」「表現力」「想像力」を、色彩・立体構成などの制作を通して学ぶ。思考から制作に至るまでのプロセスや柔軟な発想と表現力を身につける。
 平面色彩構成では、テーマに沿って、色を混色し、選択し、配置する。
 立体色彩構成では、平面で得た技術を立体へ展開し、空間を創ることを学ぶ。
 石膏表現では、テーマを立体で表現し、削ることから生み出す形態操作、造形手法の基本技法を習得させる。
 最終課題では、それまでに学んだことの集大成として、アイデアを発想し、複合的に思考し、形や色へ落とし込む作業をする。
 確かな基礎造形力を身につけることで、その後の専門性を最大限に高めてゆくことを目指す。

到達目標

今後、上位のデザイン演習に対応できるよう基礎力を身につける。(1)色彩感覚、(2)発想力、(3)造形力・構成力(4)表現力を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	毎回の講評時の採点の合算により評価

3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

演習課題の多くは授業時間外での作業となる。計画的な時間の使い方が必要である。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	なし			
2				
3				

アクリルガッシュ、スケッチブック、クロッキー帳、ペンシルホルダー、30度カッター、カッターマット、スチのり、彫刻刀、紙やすり等の専用の

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

絵の具の使い方や、カッターの使い方に関する基礎的な能力がある方が望ましい。

履修資格

講義名	生活素材論							担当教員	三宅 肇
講義コード	1401620	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233FSD261								

授業概要

私達消費者の立場で衣服を着用する場合、1.デザイン 2.色柄 3.着心地 が悪くなければ気に入る。しかし、それだけでよいのだろうか。デザインしたり、制作したりする立場では、素材をよく知り、それを十分に生かす使い方ができる能力が要求される。そこで、本講義では、生活に多く用いられる素材である繊維に焦点をあて、繊維の種類、構造、性能の概要を解説する。さらに、素材への付加価値の付与として、仕上げ加工、改質加工等の原理と実際について述べる。ついで、高性能素材としての繊維の最近の進歩について触れ、新しい技術開発を紹介し、素材についての理解を深める。

到達目標

- 1) 繊維の種類、構造、特徴を理解できること。
- 2) 繊維原料から衣服になるまでの工程を理解できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	講義内容から特に重要な項目を出題。採点の70/100とレポート点を合算して成績評価を行う。
レポート課題	30	出題テーマについて、講義で学んだ知見が生かされているかなどの観点から採点を行い、定期試験点数と合算して成績評価を行う。
上記以外		

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない

授業外学習

身の回りにある素材を題材にした講義です。予習や復習を積極的に行って頂く必要はありませんが、講義で習ったことを日常生活の中で意識することが最大の復習になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	生活デザイン学外演習							担当教員	学科教員 / 印南 比呂志 / 面矢 慎介 / 佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 南 政宏 / 宮本 雅子 / 森下 あおい / 山田 歩 / 横田 尚美
講義コード	1401630	単位数	2	開講期	通年集中	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233LVD207-C								

授業概要

地域や社会において、よりよい生活環境を実現するために何が問題なのかを明らかにする。問題に取り組む意識や立場、有効な手法を議論し、その解決方法を検討し、レポートの作成、具体的な提案や発表、制作等を行う。授業は具体的な課題やテーマに即し、フィールドワークを中心として行われる。

到達目標

地域、社会に関わる問題について専門的視点から分析、考察し、解決・提案できる総合的な生活デザイン能力の習得をめざす。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	フィールドにおける演習、およびレポート等の提出、発表などにもとづき評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業時間内に適宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	木匠塾（生活デザイン）							担当教員	佐々木 一泰
講義コード	1401635	単位数	2	開講期	通年集中	授業種別	演習		
ナンバリング番号									

授業概要

日本は国土の約7割を森林が占めている森林国であり、日本には木を生活の中に活かしコントロールする技術がある。しかし現在日本の森林は大きな問題を抱えている。そこで、木-山-木造について、広い視野に立ち、実地に学ぶことを目指す。ここでは木材等の生物材料を中心として用いることで木材の知識・技術・歴史背景などを学び、構築物を学生主体で設計・制作することによって、素材の特性、利用方法、加工技術、木組み、ディテール（収まり）などを総合的に学習する。活動拠点となる地域は、加子母（岐阜県中津川市）、川上村（奈良県）、多賀町（滋賀県）の中から選択する。主な実施製作の期間は、夏季2週間程度を予定しているが、活動拠点によっては、その他の時期でも活動を行う。制作のための設計は、地元の方々と協力交流を行いながら進め、指導も受けることができる。また木匠塾には、他大学の学生の参加もあり、大学を超えた活動も期待できる。

到達目標

- (1) 木造の知識・技術・歴史背景を理解し、基本的な設計技術を習得する。
- (2) 地域に必要とされる構築物の設計を提案できる。
- (3) 木材加工のための工具を巧みに使用できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	成績評価は、設計と制作での取り組み態度（パフォーマンス）によって評価し、到達目標で示す(1)については30%、(2)については30%、(3)については40%で評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	生活デザイン論						担当教員	学科教員 / 印南 比呂志 / 面矢 慎介 / 佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 南 政宏 / 宮本 雅子 / 森下 あおい / 山田 歩 / 横田 尚美	
講義コード	1401640	単位数	2	開講期	後期	授業種別			講義
ナンバリング番号	233LVD201								

授業概要

生活デザイン学科では道具・住居・服飾という3分野を中心に学んでいる。この授業では生活におけるデザインの役割について、各分野それぞれにテーマを設け、生活の中にあるさまざまなデザインや知恵、技術を拾い出す。また、これからの生活デザインと各分野のあり方について考察を行い、ひとつの分野からは見えにくい横断的な視点を養う。また各分野ごとにゲストを招聘して講義を行う。

到達目標

- (1) 生活におけるデザインの役割という視点での知識を深め、その背景、価値を理解できるようにする。
- (2) 生活に関わるデザインの各分野について基礎的な知識を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	各回レスポンスペーパーにより評価する。
上記以外		

授業外学習

事前に各講義テーマで発表される事前情報を収集し、講義後生活デザインのあり方についての考察を行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

なし

履修資格

講義名	生活デザイン論						担当教員	学科教員 / 印南 比呂志 / 面矢 慎介 / 佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 南 政宏 / 宮本 雅子 / 森下 あおい / 山田 歩 / 横田 尚美	
講義コード	1401640	単位数	2	開講期	後期	授業種別			講義
ナンバリング番号	233LVD201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業概要・ガイダンス	生活デザイン論の概要
第2回	マーケティング-1	マーケティング分野について
第3回	道具-1	道具分野について 1
第4回	道具-2	道具分野について 2
第5回	道具-3	道具分野について 3
第6回	道具-4	道具分野について 4
第7回	住居-1	住居分野について 1 学外実習を含む
第8回	住居-2	住居分野について 2
第9回	住居-3	住居分野について 3
第10回	住居-4	住居分野について 4
第11回	住居-5	住居分野について 5
第12回	服飾-1	服飾分野について 1
第13回	服飾-2	服飾分野について 2
第14回	服飾-3	服飾分野について 3
第15回	まとめ	生活デザイン論まとめ
担当者から一言		

講義名	生活デザイン論演習						担当教員	学科教員 / 印南 比呂志 / 面矢 慎介 / 佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 南 政宏 / 宮本 雅子 / 森下 あおい / 山田 歩 / 横田 尚美	
講義コード	1401690	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	333LVD302								

授業概要

学生各自の卒業制作・卒業論文に向けて、生活デザインのそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、研究方法、制作方法、調査方法などを修得し、必要な文献や資料を集め、また必要な現地調査などを行うなど、各自の課題や問題に応じて演習を行う。

到達目標

卒業研究で取り組むべき課題の意義について述べることができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	調査・研究中間報告、課題発表、レポート・制作物等により総合的に判断する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業時間内に適宜紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	生活デザイン論演習						担当教員	学科教員 / 印南 比呂志 / 面矢 慎介 / 佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 南 政宏 / 宮本 雅子 / 森下 あおい / 山田 歩 / 横田 尚美	
講義コード	1401701	単位数	3	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	333LVD303								

授業概要

学生各自の卒業制作・卒業論文に向けて、生活デザインのそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、研究方法、制作方法、調査方法などを修得し、必要な文献や資料を集め、また必要な現地調査などを行うなど、各自の課題や問題に応じて演習を行う。

到達目標

- (1) 卒業研究で取り組む課題領域についての知識を深める。
- (2) 課題を達成するための研究方法、制作方法、調査方法などを修得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	調査・研究中間報告、課題発表、レポート、制作物、最終発表等により総合的に判断する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業時間内に適宜紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	卒業研究・製作／論文（生活デザイン）							担当教員 学科教員／印南 比呂志／面矢 慎介／ 佐々木 一泰／藤木 庸介／南 政宏／ 宮本 雅子／森下 あおい／山田 歩／ 横田 尚美
講義コード	1401800	単位数	8	開講期	通年研究	授業種別	卒業	
ナンバリング番号	433LVD401							

授業概要

卒業制作と卒業論文の課題については、生活デザイン専門分野の中から学生自身が担当教員の指導の下に決定し、それぞれの課題に従って制作あるいは論文の作成を行う。卒業制作を行う学生は、制作の他にその内容を説明し、補強する研究報告を同時に提出しなければならない。最終的には卒業研究の成果を発表する展示および口頭発表会を開催し、成果をまとめた卒業研究報告集を刊行する。

研究は以下のような手順で進める。

担当教員の指導により、4年次前期の早い時期に卒業研究のテーマをかためて研究をすすめる。

9月の中間報告会で、卒業研究の中間発表を行う。

設定された期限までに、規定の内容の論文（作品）を提出する。

到達目標

各自がそれぞれ課題としたテーマについて自信を持って発表できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	途中の進捗状況、中間発表並びに最終審査の結果によって合否を判定する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

指導教員が適宜指示する

前提学力等

履修資格

講義名	テキスタイルデザイン論							担当教員	内丸 もと子
講義コード	1402205	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233FSD266								

授業概要

この授業ではテキスタイルデザインの基礎的スキルを身につけることを目的とする。テキスタイル素材は加工方法によって多彩にその表情を変えることができる。実際の素材を見ながらテキスタイルデザインの後加工のさまざまな表現を学ぶ。さらにコンセプト作成から製品デザインへの落とし込み等を学び、実際に企画立案をすることによって、より実践的なテキスタイルデザインの企画提案方法を体験する。また、循環型社会に向けての繊維リサイクルのあり方、エコデザインについても考察していく。

到達目標

- (1) テキスタイルデザインの過程とさまざまな技法を理解することができる。
- (2) テキスタイルデザインを企画立案、プレゼンテーションをする体験をする。
- (3) 繊維のリサイクルについて考察できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	レポート(授業中のミニ課題も含む)
上記以外	50	最終課題(プレゼンテーション)

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

興味があるもの素敵だと感じるものを日々スケッチしてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

必要なプリントは授業中に配布します。

前提学力等

Illustrator及びPhotoshopのある程度の知識やスキルがあることが望ましい。

履修資格

講義名	デジタルデザイン演習						担当教員	印南 比呂志 / 小杉 美穂子 / 佐々木 一泰 / 竹岡 寛文 / 南 政宏 / 森下 あおい	
講義コード	1402230	単位数	2	開講期	通年	授業種別			演習
ナンバリング番号	233LVD206								

授業概要

CADや画像処理，ドローイングソフトなどを用いて，デジタルデザインのリテラシーから操作技術の基礎から応用までを学ぶ。

到達目標

PCを用いたデザイン作業の知識を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	授業中に課した課題を次週までに復習完成させるなどにより、技術の習得度を評価する。
上記以外	50	授業中の取り組み、態度などを評価。

授業外学習

授業における課題の理解度，および毎回の授業内で作成する課題を持ち帰り復習精査して次週に提出し評価。基本的に授業時間内に終了できる程度の課題内容による演習を行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	cinema4D Beginners	阿部司	BNN	978-4-86100-850-4
2				
3				

テキスト：なし。適宜プリントを配布する。指定図書：授業内に適宜紹介する。参考書：授業内に適宜紹介する。

前提学力等

通年で3分野のデジタルスキルを網羅する為，前期・後期どちらかのみ受講は受け付けない。

履修資格

講義名	デジタルデザイン演習							担当教員	印南 比呂志 / 小杉 美穂子 / 佐々木 一泰 / 竹岡 寛文 / 南 政宏 / 森下 あおい
講義コード	1402230	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233LVD206								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	演習説明, 機器などの使用にあたっての注意事項。
第2回	DTPソフトを使った, レアウトの基礎・1 (タイポグラフィ和文)	Illustratorを使用して, 文字組の基礎を学ぶ。
第3回	DTPソフトを使った, レアウトの基礎・2 (タイポグラフィ欧文)	Illustratorを使用して, 文字組の基礎を学ぶ。
第4回	DTPソフトを使った, レアウトの基礎・3 (画像処理)	photoshopを使用して, 写真画像の修正, 合成処理などを学ぶ。
第5回	DTPソフトを使った, レアウトの基礎・4 (編集レイアウト)	Illustrator・photoshopを使用して, エディトリアルデザインの基礎を学ぶ。
第6回	Webサイトの構築・作成の基礎・1	IT社会における, ネットの世界がどういう仕組みで動いているのかの原理について理解を深める。
第7回	Webサイトの構築・作成の基礎・2	ウェブ上にあふれる新しい技術について知る。
第8回	Webサイトの構築・作成の基礎・3	ウェブ作成についての基礎を学ぶ。
第9回	Webサイトの構築・作成の基礎・4	ウェブ作成についての基礎を学ぶ。
第10回	Illustrator・photoshopを使ったファッションデザイン画の基本・1	集中講義として行う (日時についてはオリエンテーション時に説明する)
第11回	Illustrator・photoshopを使ったファッションデザイン画の基本・2	集中講義として行う (日時についてはオリエンテーション時に説明する)
第12回	Illustrator・photoshopを使ったファッションデザイン画の基本・3	集中講義として行う (日時についてはオリエンテーション時に説明する)
第13回	Illustrator・photoshopを使ったファッションデザイン画の基本・4	集中講義として行う (日時についてはオリエンテーション時に説明する)
第14回	Illustrator・photoshopを使ったファッションデザイン画の基本・5	集中講義として行う (日時についてはオリエンテーション時に説明する)
第15回	Illustrator・photoshopを使ったファッションデザイン画の基本・6	集中講義として行う (日時についてはオリエンテーション時に説明する)
第16回	cinema4dを使った, プロダクト3DCGの基本・1	3DCGとは
第17回	cinema4dを使った, プロダクト3DCGの基本・2	ポリゴンモデリング基礎
第18回	cinema4dを使った, プロダクト3DCGの基本・3	パスによるモデリング基礎
第19回	cinema4dを使った, プロダクト3DCGの基本・4	レンダリング
第20回	cinema4dを使った, プロダクト3DCGの基本・5	シーン設定
第21回	cinema4dを使った, プロダクト3DCGの基本・6	マテリアル
第22回	cinema4dを使った, プロダクト3DCGの基本・7	テストの練習
第23回	cinema4dを使った, プロダクト3DCGの基本・8	テスト
第24回	DRA-CAD, Vectorworksを使った, 2D・3DCADの基本・1	CADの基本知識とデータの仕組み
第25回	DRA-CAD, Vectorworksを使った, 2D・3DCADの基本・2	2D/3DCADのデータ作成 (数値・座標の入力による作成)
第26回	DRA-CAD, Vectorworksを使った, 2D・3DCADの基本・3	2D/3DCADのデータ作成 (数値・座標を用いた立体化)
第27回	DRA-CAD, Vectorworksを使った, 2D・3DCADの基本・4	2D/3DCADのデータ作成 (データのアプリケーション間の連携と性質)
第28回	DRA-CAD, Vectorworksを使った, 2D・3DCADの基本・5	2D図面データの作成 (2DCAD製図の基礎)
第29回	DRA-CAD, Vectorworksを使った, 2D・3DCADの基本・6	2D図面データの作成 (2DCAD製図の基礎)
第30回	DRA-CAD, Vectorworksを使った, 2D・3DCADの基本・7	2D図面データの作成 (2DCAD製図の基礎)

担当者から一言

学部情報室のPCの起動がとても遅いため, 遅刻せず授業開始前に立ち上げることが望ましい。
cinema4D学生版は登録制であるが無償で使える。事前に自身のPCにインストールしておく, 授業外で学習しやすい。インストールする場合は, PC

講義名	デッサン法							担当教員	富原 仁美
講義コード	1402260	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	133LVD201								

授業概要

造形表現の基礎となる描写力を習得する。形態や色彩などの造形要素を理解し、それらを正確に描写表現するための考え方や技術を学ぶ。全回実技の授業。

到達目標

基本的～複雑な形態を空間的に把握し、平面に正確に描写することが出来る。
遠近感・空間・明暗・素材感などの造形要素を理解して、それらを的確に描写表現することが出来る。
色彩を体系的に理解することが出来る。また求められる色を絵具を用いて作り出すことが出来る。
他者への伝達ツールとしての描写表現が出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標 ~ 及び、授業の取り組み姿勢、各20%。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	カラーコーディネーター入門 色彩	大井義男・川崎秀昭	日本色研事業	
2				
3				

ガイダンス後に校内購買部で購入。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	道具計画論							担当教員	印南 比呂志
講義コード	1402290	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333TLD243-C								

授業概要

住環境の実態を背景に、人間が関わってきた道具類を毎週ひとつの分野にテーマを絞って、その製品をとりあげて講義をすすめる。その製品の歴史、市場、変遷、社会的価値についてさまざまな視点から考察を試みる。また、ものづくりとしての製品開発における企画設計プロセス、市場での製品流通やマネージメントに至るまでの実際を学ぶ。テーマによっては外部講師として専門家の招聘して講義を行う。

到達目標

道具という視点で世の中に存在するさまざまな製品、ブランド商品などの背景、価値を理解できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	80	毎回の講義でのレスポンスシート、中間レポート、最終レポート課題により評価する。
上記以外	20	即日設計課題や、調査課題などの宿題を適宜課す。

授業外学習

事前に毎週の講義テーマに関する事前情報を収集しておく。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	生きのびるためのデザイン	ヴィクター・パパネック	晶文社	
2	デザインのイデオロギーとユートピア	ゲルト・ゼレ	晶文社	
3	ものが生まれる産地、ものを輝かせるデザイン	影山和則	ラトルズ	

前提学力等

美術史、デザイン史、建築史についての基本的な学力を要する。

履修資格

講義名	道具デザイン演習							担当教員	南 政宏 / 佐藤 延弘
講義コード	1402300	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233TLD241								

授業概要

前半 南担当分

道具（プロダクト）デザインやブランディングデザインの基礎となるアイデア、企画立案から、モデル製作、図面製作、ロゴなどのグラフィックデザイン、写真撮影、プレゼンテーションパネルの製作までの基礎を習得する。

後半 佐藤担当分

自分のデザインしたものを自分で作り（又は製造ラインを計画し）販売までを考えるセルフプロダクションをテーマにした授業。小さな規模（個人又は少人数チーム）でのモノづくりを可能とする手法を探り、商品ストーリーの構成、素材の選択、加工方法、生産数や販路についての知識と技能を習得する。本授業の中心となるポイントとして「魅力ある商品とは何か」を考えるところにある。素材の変化や、人が持つ共通の感覚や記憶などから商品のコンセプトを導き、ストーリー性のある商品を考え自ら製作する。商品をデザインするだ

到達目標

道具デザイン、プロダクトデザイン、パッケージデザイン、ブランディングデザインなどのプレゼンテーションの基本的な技術を習得する。

- (1)商品のストーリー/ブランドコンセプトとは何か理解を深め、一般的な理解と自分の考えを説明できるようになる。
- (2)商品を製造・販売するために、どのような技術や知識が必要かを考え、自分で調べることができる。
- (3)生産数や製作環境に適した材料や加工技法についての知識を深め、実践することができる。
- (4)自分の作品（商品）の魅力、多くの人に正しく伝える表現方法を身につける。

履

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	課題作品	「最終課題の完成度の評価50%」+「各回レポート及び提出物の評価 30%」+「製作過程での問題解決能力の評価10%」+「授業への参加意欲の評価10%」を基本。各回提出課題は未完成であっても考えが見える状態であれば必ず提出すること。レポート（写真）は次回授業の開始ま

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない等

授業外学習

身の回りのモノや風景、デザインされた物品へ関心を持つ。できるだけ多くの時間を手を動かす時間に費やして下さい。また、他の人の考えや作ったものに

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	特になし			
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Sketching	Koos Eissen (著), Roselien Steur (著)	Bis Pub	9063691718
2				
3				

前提学力等

Adobe illustratorとphotoshopを使用します。各自用意。デジカメを毎回持参してください。

履修資格

講義名	道具デザイン演習							担当教員	印南 比呂志 / 南 政宏
講義コード	1402310	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233TLD341								

授業概要

前期授業の道具デザイン演習で習得した技術、技法を基礎として、製品デザイン開発の方法をさまざまなものづくりの業界の現場に関わりながら学んでいく。架空もしくは実際の企業の商品計画やCI（コーポレートアイデンティティ）計画などの実践的な課題を通して進めていく。またこれらの成果をわかりやすく表現するための提案パネルや模型などの制作を通して、プレゼンテーションの方法も学んでいく。商品開発からブランディングまで含めた課題が多くなる。産学連携のプロジェクトや、日本の第一線で活躍するプロダクトデザイナーをお招きしての講評会などを行う。

到達目標

- (1)ものづくりの現場調査の方法。つまりインタビューやドキュメンテーションの方法を修得する。
- (2)デザイン提案物の簡単なモデリングやパネルプレゼンテーション技術を修得する。
- (3)コンピュータのを使ってプレゼンテーションできる。（パワーポイント、CGなど）

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	提出課題による評価：50%
上記以外	50	課題作業のプロセスにおける取り組みによる評価50%

3週～4週毎にデザイン制作課題を課す。授業時間数の1/3以上欠席したものは評価対象にしない。

授業外学習

時間外での課題制作もある。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	編集デザインの教科書	工藤強勝監修	日経デザイン刊・日経BP社	978-4822235048
2				
3				

前提学力等

プレゼンテーション技法、道具デザイン演習、デジタルデザイン演習を履修していること。
Adobe illustratorとphotoshopを使用します。デジカメも使用します。

履修資格

講義名	道具デザイン演習							担当教員	面矢 慎介 / 印南 比呂志
講義コード	1402320	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	333TLD341-C								

授業概要

道具の計画・デザインにおいて必要な知識・考え方と技術を修得する。道具デザイン演習 ～ で学んだ技術と知識を基礎として、生活関連分野の製品およびそれらを含んだ生活空間についての具体的な計画・デザインの課題を課す。

到達目標

(1) 基礎的調査・構想、(2) 企画立案、(3) 造形、(4) 立体モデル制作、(5) プレゼンテーションパネル制作、(5) プレゼンテーションまでの作業を修得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	課題作業のプロセスにおける調査報告(20%)
上記以外	80	完成提出作品とそのプレゼンテーション(80%)

企業や地域からの要望による課題や、コンペなどを中心に行うため、評価は外部審査、クライアント審査なども考慮して総合的に行う。

授業外学習

作業は授業中では完成しない。学生には課題の進行に沿って授業時間以外での作業が要求される。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回の課題に適した資料等を指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回の課題に適した資料等を指示する。

前提学力等

道具デザイン演習 ・ をすでに履修していること。

履修資格

講義名	道具デザイン史							担当教員	面矢 慎介
講義コード	1402340	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333TLD242								

授業概要

近代以降における道具デザインの変容についての解説。近代以降の工業化によって、生活環境を構成する道具は大きく変容してきた。従来のデザイン史が歴史上有名なデザイナー個人やグループの造形思想に重きをおいて造形上の変容を説明してきたのに対して、本講義では、近代以降に登場した家庭用生活機器・生活道具を中心に、それらの成立・発展・普及の経緯やデザインの変容について、経済的・社会的・文化的・技術的背景との関係から考察する。

到達目標

道具のデザインが恣意的な外形上の操作ではなく、産業社会における生産と生活の形態と深く結びついた活動であることを理解できる。(1) 授業内容を理解し、ポイントをまとめ、自分なりの意見を述べるができる。(2) 授業内容に関連する文献を読み、文献中の歴史的事象と現代の事象とを比較考察することができる。(3) 1つの道具を事例としてそのデザインの歴史的変化について調べ、結果を文章にまとめることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	80	文献レポート(中間レポート)と期末レポート 成績評価への寄与率は、文献レポート20%、期末レポート60%
上記以外	20	コメントカード

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。

授業外学習

毎回、授業終了時にコメントカードを回収する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	世界デザイン史	阿部公正ほか	美術出版社	
2	欲望のオブジェ	アドリアン・フォーティ	鹿島出版会	
3				

前提学力等

「近代デザイン史」をすでに履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	道具デザイン論							担当教員	印南 比呂志 / 南 政宏
講義コード	1402350	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333TLD241-C								

授業概要

プロダクトをデザインして販売できる商品としていくためには、様々な条件を克服していかなければならない。企業側にある論理、販売側にある論理、デザイナーが実現したいイメージ。それらをどのように乗り越えて商品として実現していくのか、デザイナーと、メーカーの実務的なやり取りを通しながらそのプロセスを追いながら解説する。商品について深く考察することでメーカーとユーザーの視点から道具について考察する。

到達目標

商品をとるべく経済の仕組みや流通、販売、技術、広告、ブランディングについての知識を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	テーマに対して、オリジナリティのある内容で書かれているか。
上記以外	50	毎回のレスポンスペーパーによる。

必要に応じて小レポートを課する。授業時間数の1/3以上欠席したものは評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	人間尺度論	戸沼幸市	彰国社	3052-300295-3081
2	safe:design takes on risk	paola antonelli	The Museum of Modern Art	0-87070-580-6
3				

前提学力等

履修資格

講義名	統計学基礎							担当教員	細馬 宏通
講義コード	1402360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD106, 134NUT107, 135PSY203								

授業概要

最近ではパソコンやソフトウェアのおかげで、数式を意識しなくとも気軽に統計をあつかえるようになってきた。にもかかわらず、いざデータを手にとると、どこから手をつけていいかとまどう人が多い。そもそもなぜそのデータに対して統計的処理を行なう必要があるのか。データにはどんな性質があるか。どんなタイプのデータにはどんな手法がふさわしいのか。どんな手法を使うとどんな結果が引き出されるのか。本講義では、以上のような問題を念頭に置きながら、標本や母集団などの基本的概念から出発して、推定や検定、検証的アプローチと探索的アプローチの基本的な知識を扱う。

到達目標

- (1) 母集団と標本の概念を身につける。
- (2) 相関を含む記述統計量の基本的な使い方を習得する。
- (3) 推定と検定の基本手順を習得する。
- (4) 日常生活で用いられる統計学的な考えに関心を持ち、検証する態度を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	70%	全回で扱った統計学的知識が正しく理解できているかを問う。
レポート課題		
上記以外	30%	小テスト(随時)：各回で扱った統計学的知識を理解しているかを問う。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	完全独習 統計学入門	小島寛之	ダイヤモンド社	4478820090
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	人間工学							担当教員	中村 孝之
講義コード	1402510	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233LVD203								

授業概要

社会の急速な変化で生じる、人間と、製品や環境のあり方のギャップを埋めて行くための手がかりとなるのが人間工学である。ここでは、生理、心理、身体、そして行動など、人間の基本的特性を理解し、プロダクト、インテリア、建築などの生活環境構成要素を取り上げ、人間との最適な関係を考えて計画やデザインの手法について学ぶ。
授業計画について、時期は前後することがある。

到達目標

- (1) 人間工学の目的とするところを理解し、基本的な知識を習得する
- (2) 生活環境やプロダクト製品に関する人間生活工学研究の視点を養う
- (3) インテリアやプロダクトデザインの際に、人間からのアプローチができるようになる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)について、記述試験を行う
レポート課題	60%	到達目標(2)(3)について、レポートを作成する
上記以外		

3分の一以上欠席した場合、評価の対象としないことがある。

授業外学習

配布プリントにより授業を行う。授業中にノートをとることで短期記憶をつくり、復習することで長期記憶にする。そして設計やデザインの場面で応用することによって身につくものである。参考書を紹介するので、1冊は読むこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリントを配布

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初めて学ぶ人間工学	岡田明、後藤 義明、八木 佳子、山崎 和彦、吉武 良治	理工図書	
2	ユーザーインターフェイスの実践	山岡俊樹、岡田明	海文堂出版	
3	ユニバーサルデザインの教科書[増補改訂版]	中川聡	日経BP社	

前提学力等

履修資格

講義名	人間工学実習							担当教員	森下 あおい / 宮本 雅子
講義コード	1402520	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	333LVD301								

授業概要

生活に関わるデザインの多くは、人体のサイズや形態を基準に設計されている。この授業では人体計測法と基準となる人体各部の計測点を、実際の計測を通じて学ぶとともに、服飾、道具、住居分野のデザインを行う際に必要とする体形特徴や、動作や姿勢によって生じる体形の変化などに関する設計条件を実験によって把握する。また計測値をデザインに活用するための統計手法を学ぶ。

到達目標

- (1) デザインに必要な人体形態の理解
- (2) 衣服型紙と人体寸法の関係の理解
- (3) 計測値の統計処理法の習得
- (4) 人間とモノとの関係について分析する能力の習得

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標の(1)デザインに必要な人体形態の理解、については、レポート30%、(2)衣服型紙と人体寸法の関係の理解、については、レポート10%、(3)計測値の統計処理法の習得については、レポート10%、(4)人間とモノとの関係について分析する能力の習得、については、レポート50%で評価する。

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。
実習課題ごとにレポートが課せられる。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

テキスト：配布資料によって授業を行います

前提学力等

履修資格

講義名	人間文化論 A							担当教員	細馬 宏通 / 市川 秀之 / 今井 絵理 / 島村 一平 / 森下 あおい
講義コード	1402540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD102, 134NUT102, 135LAH2011, 37BAC102								

授業概要

人間文化学部は、地域文化学科、生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科、国際コミュニケーション学科の5学科から成っている。しかしそれぞれの学科は特定の分野の中に閉じ込められているわけではない。では、それぞれの学科は外の分野に向かってどのように開かれているのだろうか、それを考える手がかりとして、この講義では異なる学科に属する10組の教員どうしの対談と、各学科の教員による5つのレクチャーが行われる。これから4年間を過ごす学部で、どのように学問の関心を広げ、他学科の教員や学生と交流を開いていけばよいのか、この講義からそのことを考えるヒントをつかんでほしい。

到達目標

- (1)人間の文化に関する知識を幅広く身につけ、理解できる。
- (2)学問領域を越えて、多様なできごとに興味と関心を持つ態度を持つことができる。
- (3)自分の領域で直面している問題に対して、他領域の人々とディスカッションを行い、柔軟な思考と判断を行うことができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート課題（学生による学科間ディスカッションによるもの）
上記以外	50	各対談時のリスポンスペーパー

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	人間文化論B						担当教員	定森 秀夫 / 石川 慎治 / 河 かおる / 武田 俊輔 / Borjigin Burensain	
講義コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業種別			講義
ナンバリング番号	133LVD103, 134NUT103, 135LAH2021, 37BAC103								

授業概要

テーマ：「交流する文化、交差するまなざし」
 文化は、さまざまな歴史的な要因によって他の文化と交流し、受容や反発の複雑なプロセスを経ながらそのオリジナルな形を変容させてゆく。本講義では、5人の教員がオムニバス形式で、それぞれ具体的な文化現象をとりあげて、その交流や変容の問題について論じる。
 本年度の担当教員とその講義内容は以下の通りである。

到達目標

文化の交流や変容の諸相について理解すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100%	ミニレポートもしくは小テストに対する採点
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特になし

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

その都度、紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	人間文化論C							担当教員 宮本 雅子 / 遠藤 弘史 / 中井 直也 / 中村 好孝 / 東田 一彦 / 福渡 努 / 松嶋 秀明 / 森 紀之 / 横田 尚美
講義コード	1402560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	133LVD104, 134NUT104, 135LAH203							

授業概要

人間文化論Cでは「人間を取り巻く生活環境」に焦点をあて、生活環境に関わる諸問題について考える機会とする。生活環境は、人間の生活と生存にかかわる人的・社会的・自然的諸条件等からとらえることができる。そこで生活文化系3学科(生活デザイン・生活栄養・人間関係)教員のそれぞれの視点から、人間が心身ともに健康で快適に生活していくための諸条件について論じる。

この授業では、まず、住生活・衣生活における快適な環境条件について5回講義する(宮本・横田)。衣食住の中で、食が、一番夢がないといわれている。「カラダのためにコレを食べなさい、コレは食べてはいけません」、といわれ続け、説教食事学といわれています。この講義では、科学的根拠に基づいて、食事や栄養成分が健康や身体に及ぼす影響について論じる(中井・福渡・遠藤・森・東田)。

さらに、人間にとっての最小の共同体である家族がどのようになろうとしているかという現代家族論を5回講義する(松嶋・中村)。

到達目標

(宮本・横田)(1)住宅の中の暮らしとその変化について理解すること。(2)自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす環境への影響に関心を持つことができる。

(中井・福渡・遠藤・森・東田)食事や栄養成分が健康や身体に及ぼす影響について理解することができる。

(松嶋・中村)(1)家族をみるための視点を身につけることができる。(2)現代的な社会問題を家族との関連で理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	(宮本・横田)到達目標の(1)住宅の中の暮らしとその変化について理解すること、(2)自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす環境への影響に関心を持つことができる、については、課題レポート(33%:(1)19%、(2)14%)

各教員がそれぞれ授業中に課題を出すことがある。
授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	比較衣装論							担当教員	横田 尚美
講義コード	1402630	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133FSD161								

授業概要

衣食住の中の衣は、生活デザインを構成する重要な要素である。文明が生まれてから今日までの服飾文化を時代ごとに比較しながら論じることで、それぞれの時代の服飾の必然を知る。そのことが現在を理解する鍵となり、未来を考えるヒントになる。時代時代の歴史やデザインとともに論じるので、デザインのインスピレーション源にもなる。服飾を通じて、生活デザイン全般や世界の歴史を理解する一助とする。

到達目標

- (1) 歴史の流れを把握できる。
- (2) 服飾の変化を歴史の中に意味づけられる。
- (3) 服飾の変化のポイントが理解できる。
- (4) 時代ごとの他のデザイン分野との関わりが理解できる。
- (5) 時代ごとのポイントが理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	92	(1)～(4)について、授業内容の理解度を定期試験で計る。それぞれ23%とする。
レポート課題		
上記以外	8	(4)については、リアクションペーパーで評価する。各回の内容を理解しているか、授業に積極的かを評価する。

3分の1以上を特段の理由なく欠席した場合は、評価の対象としない。定期試験の結果とリアクションペーパーの内容に基づいて、100点満点中60点以上を合格とする。

授業外学習

講義の終わりに、次回の内容に関する質問を出し、それについて次回までに考えをまとめてくるように指示する場合がある。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	カラー版世界服飾史	深井晃子	美術出版社	978-4-568-40077-9
2	20世紀からのファッション史	横田尚美	原書房	978-4-562-04773-4
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

高校の社会科の教科書や資料集などを持っていれば、参考にしてほしい。

前提学力等

履修資格

講義名	比較道具論							担当教員	面矢 慎介
講義コード	1402680	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133TLD141								

授業概要

比較文化の視点から道具を考察する基本的視点の解説。個別的文化をこえて生活道具の多様性を理解するため、世界各地の生活用具をとりあげて日本の生活用具と比較し、その相違をもたらした文化的・技術的背景について考察する。日本および世界各地の伝統的道具ばかりでなく、近代化以降の道具、大量生産による現代製品についても取り上げる。比較の対象領域としては、わが国の近代化以前の道具文化との関連の深い朝鮮半島、および近代化以後の主要な文化移入元のひとつであった英国、第二次世界大戦後の工業製品において日本に強い影響をもたらした米国などを中心とする。

到達目標

生活文化と道具デザインの密接な関係についての認識を深める。(1) 授業内容を理解し要点をまとめられる。(2) 授業内容に対して自分の意見や感想を述べることができる。(3) 授業に関係する文献を読み、内容をまとめ、考察を加えることができる。(4) 1つの道具について自分で調べ、その結果を文章にまとめることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	60	期末レポート
上記以外	40	コメントカード(15%)と小レポート(3本、計25%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。

授業外学習

毎回の授業終了時にコメントカードを回収

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	道具学への招待	道具学叢書委員会	ラトルズ	
2	おまるから始まる道具学	村瀬春樹	平凡社新書	
3				

授業中にプリント配布する

前提学力等

履修資格

講義名	服飾文化論							担当教員	横田 尚美
講義コード	1402780	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233FSD265								

授業概要

服飾文化について、服飾文化史、社会と服飾産業という観点から紹介する。
現在のファッションの原点を知る。
ファッションとは異なる服飾文化の側面に気付かせる。
服飾産業の現状についても注目する。
時代時代の歴史やデザインとともに論じるので、デザインのインスピレーション源ともなる。

到達目標

- (1) 20世紀から現在に至る歴史の流れを把握できる。
- (2) ファッションの変化を歴史の中に意味づけられる。
- (3) 20世紀初めから現在のファッションに至る過程が、社会の変化とともに理解できる。
- (4) 時代ごとの他のデザイン分野との関わりが理解できる。
- (5) 各回ごとのポイントが理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	92	(1)～(4)について、授業内容の理解度を定期試験で計る。 複合的な内容の試験によって、理解度を計る。
レポート課題		
上記以外	8	(4)については、リアクションペーパーで評価する。 各回の内容を理解しているか、授業に積極的かを評価する。

3分の1以上を特段の理由なく欠席した場合は、評価の対象としない。
定期試験の結果とリアクションペーパーの内容に基づいて、100点満点中60点以上を合格とする。

授業外学習

講義の終わりに、次回の内容に関する質問を出し、それについて次回までに考えをまとめてくるように指示することがある。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	カラー版世界服飾史	深井晃子	美術出版社	978-4-568-40077-9
2	20世紀からのファッション史	横田尚美	原書房	978-4-562-04773-4
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

高校の社会科の教科書や資料集などを持っていれば、参考にしてほしい。

前提学力等

比較衣装論を受講していることが望ましい。

履修資格

講義名	服飾心理学							担当教員	横田 尚美
講義コード	1402800	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333FSD262								

授業概要

様々な服飾、服飾に関わる人間の行為などを通して、服飾と人間の関係について考える。
服飾、またはファッションが人間の心理に与える影響を自覚し、社会を理解する一助とする。

到達目標

- (1) それぞれのテーマに問題意識を持つことができる。
(2) 服飾が持つ心理的力を客観的かつ総合的に分析し、理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	冬休みと期末に、レポート課題を課す。 (2) についてと、レポートの書き方について評価する。
上記以外	10	(1) については、リアクションペーパーによって計る。

3分の1以上を特段の理由なく欠席した場合は、評価の対象としない。
定期試験の結果とリアクションペーパーの内容に基づいて、100点満点中60点以上を合格とする。

授業外学習

授業の内容について具体的なテーマを与え、事前に考えてくるように指示することができる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ファッションを考える	横田尚美	丸善出版	4-621-07250-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	服飾造形論							担当教員	森下 あおい
講義コード	1402830	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	333FSD261								

授業概要

衣服は人体を基体として成り立つものであり、人が着用した際の用途に応じた機能を備えながら、服装としての美しさが造形として求められる。この授業では、人体の形態と衣服との関係を基に、原型からの作図、立体裁断による方法の各々の特性を理解しながら、上衣、下衣、細部のデザイン、そのとパターン構造を学ぶ。また様々な素材によるデザインの変化と、アイデアの展開方法の視点を深めるための作品事例を紹介する。

到達目標

- (1) 服飾造形に必要な人体形態の理解
- (2) 原型からのパターンメイキングの理解
- (3) デザインに応じたパターン展開の理解

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	服飾造形の要素として、人体、パターンの基礎知識の習得。デザインに応じて平面を立体にするための相互関係の理解。
レポート課題	50	課題ごとにパターンと人体との関係を理解できているか
上記以外		

授業の3分の1以上欠席したものは評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に参考プリントを配布します

前提学力等

履修資格

講義名	服飾デザイン演習							担当教員	森下 あおい
講義コード	1402860	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233FSD264								

授業概要

この授業では、シャツとスカートの制作を通じて、衣服のパターンの構成、デザインに応じた生地を選択、裁断と組み立て方、基本的な縫製工程を学ぶ。これら一連の衣服設計の流れから、服飾制作を行う上での基礎的知識と技術を習得する。また実物資料や試着を通じて、着用時の衣服の評価の視点を理解する。

到達目標

- (1) シャツとスカートの制作技術を学ぶ
- (2) 人体各部の形状とパターンの扱い方、縫製工程とその方法を学ぶ

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	作図、裁断、縫製の仕方など、基本的な衣服の制作工程を理解しているか。
上記以外	80	課題を適切な方法で、計画的に制作できているか。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	文化ファッション大系 服飾造形講座3 ブラウス・ワンピース	文化服装学院編	文化出版局	4-579-10839-6
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	服飾デザイン演習							担当教員	横田 尚美
講義コード	1402870	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	233FSD361								

授業概要

服飾が、それぞれの時代の中でのどのような生活デザインの中で身につけられているかを、映画や文学のストーリーの中で理解することで、服飾デザインの発想に活かすための演習を行う。
 現存する衣装、当時のファッション雑誌などの一次資料も活かしながら、調査し、発表する。
 服飾文化についてのレポート課題により、論理的に考察する力とルール通りにレポートを作成する力を養う。

到達目標

- (1) 原作が楽しめ、理解できる。
- (2) 原作に登場する生活デザインなどの文化を窓口に、視野を広げることができる。
- (3) 原作に登場する服飾について関心を持ち、生活デザイン全体の中で理解できる。
- (4) 原作について、分析的なレポートがルールに則って作成できる。
- (5) 時代背景とその時代の服飾デザインを理解し、応用して服飾デザインなどを発想することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	内容(20%)、書き方(20%)
上記以外	60	(1)～(3)については、授業態度や発表の内容、リアクションペーパーで評価する。(10%) (4)発表会の課題で評価する。(50%)

授業外学習

7回から12回については、分担した部分の服飾を含む様々な歴史や文化について、グループワークと各自の活動によって調査を行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回に決定した文学作品を購入する。文庫本の予定である。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義の中で適宜、紹介する。

前提学力等

比較衣装論、服飾文化論を受講していることが望ましい。

履修資格

講義名	服飾デザイン演習							担当教員	森下 あおい/法月 紀江
講義コード	1402880	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	333FSD362								

授業概要

この授業では、テーマに応じて自らの服飾デザインの世界観を具体的に表現する力を養う。そのために、まず発想源を引き出すためのリサーチを、見学を含めた内容として行い、アイデアの展開の仕方を学ぶ。最終的な作品へと進めるにあたり、さまざまな素材を理解し、ディテールの活かし方、デザインに応じたパターンメイキング、縫製方法を学びながら、全体をまとめる力を養う。

到達目標

- (1) 発想源を引き出すリサーチとアイデアの展開ができる
- (2) デザインのねらいに応じた実物制作ができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	デザインのねらいが表現できたかレポートにまとめる
上記以外	80	課題に対する考えをデザインし制作物に表現する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリントを配布します。

前提学力等

履修資格

講義名	服飾デザイン論							担当教員	森下 あおい
講義コード	1402900	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	233FSD263								

授業概要

服飾は、時代性を映し出ししながら、人が身に纏うかたちと機能を総合してデザインするものである。この授業では、デザインのための発想やアイデアの展開、コンセプトのあり方、素材の表現方法についてを、主要な事例を通じて学ぶ。自らが主体的にデザインできるように、ドローイングを基に表現方法についても学び、服の形態、素材、色彩、イメージなどの要素を具体的に提案できる力を養う。また後半では、現代社会の中での服飾デザインの役割と課題について考察する。

到達目標

- (1) 服飾デザインの多面的要素を理解する
- (2) 服飾デザインのリサーチからアイデアを展開しデザインする方法を理解する
- (3) 服飾デザインの今日の課題についての考察の視点を持つ

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	服飾デザインの多面的要素を理解しているか デザインの背景と表現を考察する視点を持っているか
レポート課題	40	リサーチからアイデアの展開を行いまとめられるか
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリントを配布します

前提学力等

履修資格

講義名	プレゼンテーション技法							担当教員	印南 比呂志 / 南 政宏
講義コード	1402910	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD203								

授業概要

デザイン、建築、映画、アートなどさまざまな表現手法について、それらの専門分野毎に制作作業のプロセスや、基本的技術、考え方などを講義する。グラフィック分野の編集工学として、タイポグラフィ、写真、印刷、造本、映像、DTP、WEBなどの分野の表現技術について学ぶ。また立体表現手法については、スタディモデルから、プロトタイプモデルまでの制作過程を実際に実演しながら説明していく。生活デザイン学科以外でもプレゼンテーション技術について役立つ講義内容もある。講義テーマによっては現場で活躍する専門家を外部講師として招聘する。演習授業ではなく、講義形式の授業ではあるが、常に実践事例をもとに講義をすすめていく。

到達目標

映像やグラフィック、模型の表現におけるリテラシーと技術について、基礎的な知識を身につける。前半は表現技術の歴史や作品性を中心に講義を進める。後半は実践的な技術を身につけるための講義を行う。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0	なし。
レポート課題	60	毎回の授業において、授業の終了前にレポートを提出させる。
上記以外	40	簡単なプレゼンを宿題として課す。

5分の1(3回)を超えて欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

毎回の授業テーマを確認して作家の業績を書籍やウェブサイトで検索して確認しておくこと。そして、毎回提示された作品を再閲覧、確認すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

特になし

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	日常にひそむ数理曲線	佐藤雅彦 + ユーフラテス	小学館	978-4-09-480310-5
2	明和電機魚器図鑑	土佐正道 土佐信道	NTT出版株式会社	4-87188-533-XC0076
3	眼の狩人	大竹昭子	新潮社	4-10-602401-2

映像DVDについて、授業で上映できないものがあるため、個人で閲覧を勧めるものがある。

前提学力等

ものごとをわかりやすく説明できる力があれば良い。

履修資格

講義名	マーケティングリサーチ演習						担当教員	山田 歩	
講義コード	1402999	単位数	2	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	233MKD381								

授業概要

製品やサービスを開発する際には多くの疑問や仮説が出されます。市場の動向がどうなっているか、売上げ低下の理由は何か、こんな消費者はこんな商品を必要としているのではないかとといった様々な疑問や仮説に答えるための調査を設計・実施し、商品開発における戦略策定や意思決定の支援を行うのが、マーケティングリサーチです。

この演習では、受講生の興味に応じて、消費者インサイトの発見もしくはリサーチのどちらかに比重をおき、課題の設定から、その解決策の提案、リサーチであればその実施と、結果の分析・解釈、プレゼンテーションに至る一連のプロセスを実際に行ってもらいます。マーケティングリサーチの考え方や手法を理解し、自ら調査を行う力を身につけることがこの演習の目的となります。

到達目標

1. セールスプロモーションの考え方や手法を理解したか。また、それを応用できるか。
2. マーケティングリサーチの考え方や手法を理解したか。また、それを応用できるか。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	課題を適切に捉えているか。 発想にオリジナリティがあるか。 わかやすく、また、ロジカルに考えを表現できているか。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	マーケティング論							担当教員	山田 歩
講義コード	1403000	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133MKD181,335LAH307								

授業概要

どんなに優れた機能の製品でも、どんなに優れたデザインの製品でも、消費者に受け入れられヒットするとは限りません。ある製品が価値あるものとして消費者に受け入れられるためには、どんな製品を出すかを考えるだけでなく、どんな消費者を対象にするのかや、どんな価格で、また、どんな場所、広告を用いて売ればいいのかといったことまで考える必要があります。そして、商品としてヒットしたあとも、継続的にその商品が売れるように、消費者との持続的な関係を構築し、製品・サービスの価値を高める努力を続ける必要があります。この授業では、こうした企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。

到達目標

企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	マーケティングの考え方を理解できたか
レポート課題	50	宣伝会議賞(25) 授業課題(25)
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	1からのマーケティング 第3版	石井淳蔵・廣田章光	碩学舎	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

